

日本語研修コース

西口光一

本年度は、第 75 期及び第 76 期の日本語研修コースを実施した。

I では、コースの実施について報告する。そして、II ではカリキュラムの概要を紹介する。

I. 各コースの概要

□ 第 75 期日本語研修コース

1. 期間 2023 年 4 月－8 月

2. 在籍学生数 7 名

3. 担当教員

(1) コーディネータ 西口光一

(2) 専任教員 名塩征史、陳斐寧、フェレイロ・ダマソ

(3) 客員講師 佐藤道雄、山中康子、渡辺久美

4. コース・カレンダー

2023 年

4 月 7 日 (金) 11:00-12:00 オリエンテーション

4 月 7 日 (金) 13:30-14:00 開講式

4 月 10 日 (月)－8 月 7 日 (金) 授業期間

8 月 7 日 (金) 10:00-12:00 成果発表会

8 月 7 日 (金) 13:00-14:00 修了式

5. 研修旅行

4 月 28 日 (金) 広島市内見学

5 月 26 日 (金) 宮島見学

6 月 30 日 (金) マツダミュージアム見学

6. カリキュラム

IIで説明するように、授業は技能別の科目などに分けることなく、日本語の学習と習得が着実に進むように、各授業は個々にスケジュールされている。以下に、学期中の1つの週のスケジュールを例として示す。

Week 2 : 4/17-21

	M	T	W	Th	F
I 8:45 10:15				Lecture Unit 4 My everyday life わたしの一日(いちにち) B にしぐち	
II 10:30 12:00	□ Unit 2 のEssay Sharing □ Unit 3 Narrative A の 1	□ How to wordprocess in Nihongo ① ☆ Plz bring PC with you. ※カタカナ (Katakana) □ Review	Lecture Unit 4 My everyday life わたしの一日(いちにち) A	□ Unit 4 Narrative A の 1	□ Unit 4 Narrative A の 3
	ちん	にしぐち	なしお	ちん	やまなか
III 12:50 14:20	□ Unit 3 Narrative A の 2 & B の 1	□ Unit 3 Narrative B の 2 & 3	□ Unit 3 ・ GPS ・ WPS ・ Activities for writing Essay	□ Unit 4 Narrative A の 2 □ Life and Safety orientation	□ Unit 4 Narrative B の 1 ~ 3
IV 14:35 16:05	わたなべ	ダマソ	さとう	ダマソ	わたなべ

☆Unit 3 essay is due on Friday.

図 1 週間の授業スケジュールの例

7. 学生リスト

NO.	国籍	身分	進学先	専門
1	インド	日本語等予備教育生	先進理工系科学研究科	理学
2	スリランカ	日本語等予備教育生	先進理工系科学研究科	理学
3	フィリピン	日本語等予備教育生	医系科学研究科	医歯学
4	バプアニューギニア	日本語等予備教育生	医系科学研究科	医歯学
5	エチオピア	日本語等予備教育生	医系科学研究科	医歯学
6	ジンバブエ	日本語等予備教育生	先進理工系科学研究科	工学
7	ガンビア	日本語等予備教育生	医系科学研究科	医歯学

□ 第 76 期日本語研修コース

1. 期間 2023 年 10 月-2024 年 2 月

2. 在籍学生数 15 名

3. 担当教員

(1) コーディネータ 西口光一

- (2) 専任教員 名塩征史、陳斐寧、フェレイロ・ダマソ
 (3) 客員講師 佐藤道雄、山中康子、渡辺久美

4. コース・カレンダー

2023年10月5日(木) 11:00-12:00	オリエンテーション
2023年10月5日(木) 13:30-14:00	開講式
2023年10月6日(金) -2024年2月19日(月)	授業期間
*2023年12月25日(月) -2024年1月8日(月) は、冬季休業。	
2024年2月20日(火) 10:00-15:00	成果発表会
2024年2月20日(火) 15:30-16:00	修了式

5. 研修旅行

2023年11月2日(木)	広島市内見学
2023年11月17日(金)	宮島見学
2024年1月12日(金)	マツダミュージアム見学

6. カリキュラム

IIで説明するように、授業は技能別の科目などに分けることなく、日本語の学習と習得が着実に進むように、各授業は個々にスケジュールされている。以下に、学期中の1つの週のスケジュールを例として示す。

Week 4 : 10/23-27

	M	T	W	Th	F
8:45 ↓ 10:15				<ul style="list-style-type: none"> Unit 4 のEssay Sharing Unit 5 のReview 	
				にしぐち	
II 10:30 ↓ 12:00	<ul style="list-style-type: none"> Unit 4 Unit 3 のEssay Sharing Introduction to Kanji WPS 	<ul style="list-style-type: none"> How to wordprocess in Nihongo ② ☆ Plz bring PC with you. ※カタカナ (Katakana) Review 	Unit 5 Narrative Bの1	Unit 5 Activities for writing Essay	Unit 6 Narrative 2 special emphasis on learning and acquiring adjectives and combined adjectives as they appear in the narrative.
	ちん	にしぐち	なしお	ちん	やまなか
III 12:50 ↓ 14:20	<ul style="list-style-type: none"> Unit 4 Review GPS Activities for writing Essay 	Unit 5 Narrative A	Unit 5 Narrative Bの2 GPS WPS	Unit 6 Narrative 1 Orientation for Disaster Prevention	Unit 6 Review GPS WPS Activities for writing Essay
IV 14:35 ↓ 16:05					
	わたなべ	ダマソ	さとう	ダマソ	わたなべ

☆Unit 4 essay is due on Wednesday. ☆Unit 5 essay is due on Saturday.

図2 週間の授業スケジュールの例

NO.	国籍	身分	進学先	専門
1	コンゴ	日本語等予備教育生 (研究留学生)	先進理工系科学研究科 (工学)	工学
2	インドネシア	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	外国語教育
3	フィリピン	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	特別支援教育 インクルーシブ教育
4	ソロモン	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	理科教育
5	ブラジル	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	音楽科教育
6	メキシコ	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	図画工作科教育
7	エストニア	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	社会科教育
8	クロアチア	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	情報教育
9	ウガンダ	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	教育心理学
10	ナイジェリア	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (教育)	幼児教育・保育
11	ボツワナ	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (国際協力)	教育行財政学
12	マラウイ	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (国際協力)	科学教育
13	マラウイ	日本語等予備教育生 (教員研修)	人間社会科学研究科 (国際協力)	教育学
14	中国	博士課程前期	先進理工系科学研究科 (工学)	機械工学
15	インド	博士課程前期	先進理工系科学研究科 (工学)	機械工学

※14～16学内募集

II. 教育課程と学習と教育の実践

1. 概要

日本語研修コースでは、従来の構造中心のアプローチではなく、自己表現活動中心のアプローチを採用している。

自己表現活動中心のアプローチでは、各ユニットで自己表現をめぐる話題が設定されて、その話題について話す、聞いて理解する、相互行為することが目標として設定される。話題は、言語的要求が低くて表現活動が容易なものから言語的要求が高いものへと徐々に移行するように設定されている。そうした一連のユニットの学習を通して、話題をめぐる日本語力を着実に育成するとともに、文型・文法事項を系統的に習得し、基礎語彙を体系的に身につけられるようになっている。

自己表現活動中心の日本語教育（以下、自己表現の日本語教育と略す）の学習と教育をサポートする資料として、以下の教科書を活用している。

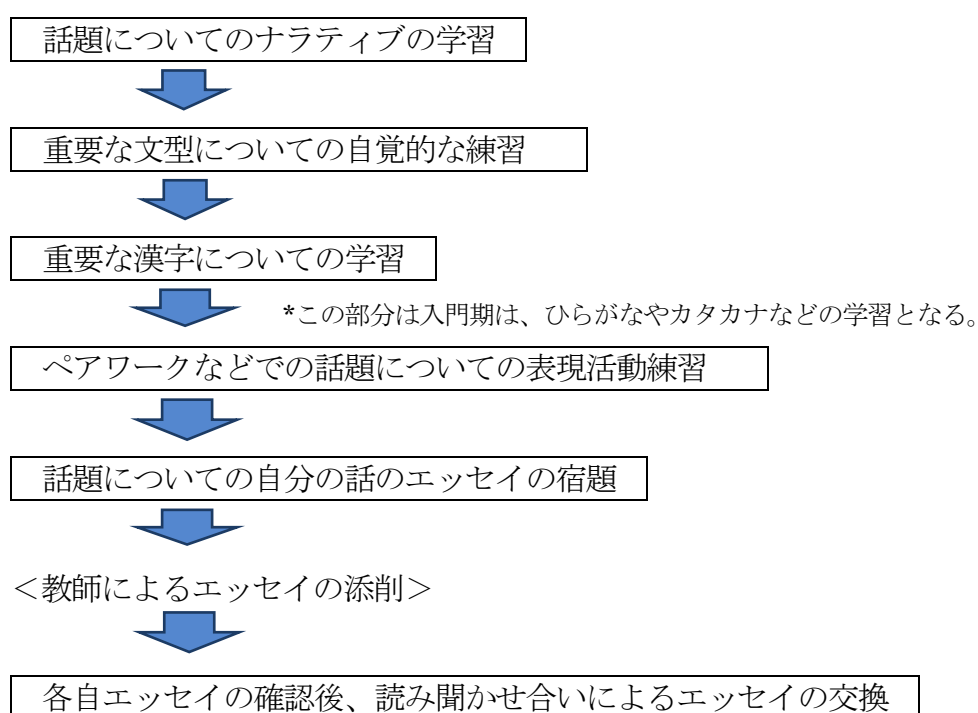
(1) 『テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）

(2) 『テーマで学ぶ中級日本語』（くろしお出版）

*(2)については、同書内の Part 1 Conversation のみを活用した。

2. 一つのユニットの学習

自己表現の日本語教育では、各話題をめぐる日本語力の育成が総体として着実に進むように、一つのユニット下の各授業を連続的に計画している。各ユニットの授業の流れの基本は以下の通りである。



自己表現の日本語教育の各ユニットでは、学生は教科書を予習や復習やエッセイ作成のために活用して主体的に学び、教師は教科書と提供された PPT 資料などを活用して積極的にその学びを支援し促進することがもくろまれている。

3. 教育実践

このように各ユニットの目標が「できるようになること」として明確に設定されている自己表現の日本語教育では、学生が日本語学習の主役となる。そして、学習の主役となった学生は各ユニットの目標を達成するべく主体的で能動的に学びに取り組む。教師は、主役の立場から離れ、主役となって目標を達成しようと努力している学生を支援し日本語を促進するサポーターとなる。

日本語教育部門：日本語・日本事情

2023年4月～2024年3月

石原淳也

授業科目一覧

・東広島キャンパス 1コマ（2時限）90分

日本語・日本事情科目 (学部生対象) 週2コマ／8週／1単位	開設ターム 受講登録者数（非正規受講の大学院生・研究生を含む）			
	1	2	3	4
日本語入門(121) A－1	17		31	
日本語入門(121) A－2		14		26
日本語入門(121) B－1	12		26	
日本語入門(121) B－2		11		24
日本語入門(122) A－1 (Basic)	15(1)		36	
日本語入門(122) A－2 (Basic)		14(1)		32
日本語入門(122) B－1 (Basic)	15(1)		29	
日本語入門(122) B－2 (Basic)		14(1)		26
日本語初級A－1 (Basic)	20(4)		17(2)	
日本語初級A－2 (Basic)		18(4)		17(2)
日本語初級B－1 (Basic)	30(3)		17(2)	
日本語初級B－2 (Basic)		27(3)		17(2)
日本語中級A－1 (Basic)	14(3)			
日本語中級A－2 (Basic)		12(2)		
日本語中級B－1 (Basic)	17(2)			
日本語中級B－2 (Basic)		17(1)		
日本語中級C－1 (Basic)			23(4)	
日本語中級C－2 (Basic)				21(5)
日本語中級D－1 (Basic)			13(6)	
日本語中級D－2 (Basic)				12(5)
日本語中上級A－1 (Basic)	16(1)			
日本語中上級A－2 (Basic)		16		
日本語中上級B－1 (Basic)	18			
日本語中上級B－2 (Basic)		18		
日本語中上級C－1 (Basic)			14(2)	
日本語中上級C－2 (Basic)				13(1)
日本語中上級D－1 (Basic)			23(1)	
日本語中上級D－2 (Basic)				18(1)

*（ ）内 共創学科生が「教養教育ベーシック日本語」として受講

日本語・日本事情科目 (学部生対象) 週2コマ／8週／1単位	開設ターム 受講登録者数（非正規受講の大学院生・研究生を含む）			
	1	2	3	4
日本語上級聴解A		5		
日本語上級聴解B				9
日本語上級分析A		8		
日本語上級分析B				6
日本語上級語彙A	7			
日本語上級語彙B			7	
日本語上級映像A	4			

日本語上級映像 B			10	
日本語上級読解 A		4		
日本語上級読解 B				6
ビジネス日本語 A	10			
ビジネス日本語 B			8	
日本語・日本文化特別研究A-1			2	
日本語・日本文化特別研究A-2				2
日本語・日本文化特別研究B-1	1			
日本語・日本文化特別研究B-2		1		

日本語教育部門:留學生関係科目
2023年4月～2024年3月

石原淳也

特別聴講学生日本語科目 (交換留学生対象の一般科目) 週2コマ／8週／2単位	開設ターム 受講登録者数			
	1	2	3	4
Introductory Japanese A-1			18	
Introductory Japanese A-2				5
Introductory Japanese B-1			5	
Introductory Japanese B-2				8
Elementary Japanese A-1	5		15	
Elementary Japanese A-2		5		14
Elementary Japanese B-1	5		12	
Elementary Japanese B-2		4		11
Intermediate Japanese A-1			13	
Intermediate Japanese A-2				10
Intermediate Japanese B-1			20	
Intermediate Japanese B-2				20
Intermediate Japanese C-1			18	
Intermediate Japanese C-2				15
Intermediate Japanese D-1	15			
Intermediate Japanese D-2		12		
Intermediate Japanese E-1	16			
Intermediate Japanese E-2		15		
Intermediate Japanese F-1	10			
Intermediate Japanese F-2		9		
Upper-Intermediate Japanese A-1(411)			9	
Upper-Intermediate Japanese A-2				7
Upper-Intermediate Japanese B-1			24	
Upper-Intermediate Japanese B-2				21
Upper-Intermediate Japanese C-1			3	
Upper-Intermediate Japanese C-2				0
Upper-Intermediate Japanese D-1	2			
Upper-Intermediate Japanese D-2				
Upper-Intermediate Japanese E-1	3			
Upper-Intermediate Japanese E-2				
Upper-Intermediate Japanese F-1	2			
Upper-Intermediate Japanese F-2				
Upper-Intermediate Japanese A-1(412)			17	
Upper-Intermediate Japanese A-2				13
Upper-Intermediate Japanese B-1			26	
Upper-Intermediate Japanese B-2				10
Upper-Intermediate Japanese C-1			4	
Upper-Intermediate Japanese C-2				0
Upper-Intermediate Japanese D-1	1			
Upper-Intermediate Japanese D-2				
Upper-Intermediate Japanese E-1	4			
Upper-Intermediate Japanese E-2				
Upper-Intermediate Japanese F-1	6			

Upper-Intermediate Japanese F-2				
Upper-Intermediate Japanese A-1(413)			14	
Upper-Intermediate Japanese A-2				14
Upper-Intermediate Japanese B-1			11	
Upper-Intermediate Japanese B-2				25
Upper-Intermediate Japanese C-1			12	
Upper-Intermediate Japanese C-2				10
Upper-Intermediate Japanese D-1	7			
Upper-Intermediate Japanese D-2		7		
Upper-Intermediate Japanese E-1	5			
Upper-Intermediate Japanese E-2		5		
Upper-Intermediate Japanese F-1	3			
Upper-Intermediate Japanese F-2		3		
Advanced Japanese Listening A-1	13			
Advanced Japanese Listening A-2	13			
Advanced Japanese Listening B-1			29	
Advanced Japanese Listening B-2			29	
Advanced Japanese Analysis A-1	11			
Advanced Japanese Analysis A-2	11			
Advanced Japanese Analysis B-1			12	
Advanced Japanese Analysis B-2			12	
Advanced Japanese Vocabulary A-1		9		
Advanced Japanese Vocabulary A-2		9		
Advanced Japanese Vocabulary B-1				21
Advanced Japanese Vocabulary B-2				21
Advanced Japanese Cinema A-1		9		
Advanced Japanese Cinema A-2		9		
Advanced Japanese Cinema B-1				17
Advanced Japanese Cinema B-2				17
Business Japanese A-1		9		
Business Japanese A-2		9		
Business Japanese B-1				14
Business Japanese B-2				14

日本語教育部門：日本語・日本事情
2023 年 4 月～2024 年 3 月

迫田久美子

授業科目一覧

霞キャンパス 1 コマ (2 時限) 90 分

教養教育ベーシック日本語科目 (学部生対象) 週 2 コマ / 8 週 / 1 単位	開設ターム 受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
日本語入門 1	15		12	
日本語入門 2		14		15
日本語初級 1	8		10	
日本語初級 2		7		10
日本語中級 A-1	7			
日本語中級 A-2		7		
日本語中級 B-1			8	
日本語中級 B-2				6

東千田キャンパス

教養教育ベーシック日本語科目 (学部生対象) 週 2 コマ / 8 週 / 1 単位	開設ターム 受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
日本語中上級 A-1	4			
日本語中上級 A-2		4		
日本語中上級 B-1	6			
日本語中上級 B-2		6		
日本語中上級 C-1			5	
日本語中上級 C-2				7
日本語中上級 D-1			12	
日本語中上級 D-2				13

日本語上級聴解 A	7			
日本語上級聴解 B		6		
日本語上級読解 A	6			
日本語上級読解 B		2		
日本語上級分析 A			9	
日本語上級分析 B				7
日本語上級論文作成 A			7	
日本語上級論文作成 B				7

日本語教育部門：留学生関係科目
2023 年 4 月～2024 年 3 月

迫田久美子

霞キャンパス 2023 年 4 月～2024 年 3 月

教養教育ベーシック日本語科目 (学部生対象) 週 2 コマ／8 週／1 単位	開設ターム 受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
Intermediate Japanese A-1	2			
Intermediate Japanese A-2		2		
Intermediate Japanese B-1			4	
Intermediate Japanese B-2				4

東千田キャンパス 2023 年 4 月～2024 年 3 月

教養教育ベーシック日本語科目 (学部生対象) 週 2 コマ／8 週／1 単位	開設ターム 受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
Upper-Intermediate Japanese A-1	3			
Upper-Intermediate Japanese A-2		3		
Upper-Intermediate Japanese B-1	4			
Upper-Intermediate Japanese B-2		4		
Upper-Intermediate Japanese C-1			1	
Upper-Intermediate Japanese C-2				1
Upper-Intermediate Japanese D-1			2	
Upper-Intermediate Japanese D-2				1
Advanced Japanese Listening A-1	3			
Advanced Japanese Listening A-2	3			
Advanced Japanese Listening B-1		3		
Advanced Japanese Listening B-2		3		

Advanced Japanese Reading Comprehension A-1	3			
Advanced Japanese Reading Comprehension A-2	3			
Advanced Japanese Reading Comprehension B-1		3		
Advanced Japanese Reading Comprehension B-2		3		
Advanced Japanese Analysis A-1			5	
Advanced Japanese Analysis A-2			5	
Advanced Japanese Analysis B-1				5
Advanced Japanese Analysis B-2				5
Advanced Japanese Academic Writing A-1			6	
Advanced Japanese Academic Writing A-2			6	
Advanced Japanese Academic Writing B-1				7
Advanced Japanese Academic Writing B-2				7

第 38 期 (2022 - 2023)

日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、森戸国際高等教育学院（2010 年に旧留学生センターから国際センターへ、その後 2018 年に森戸国際高等教育学院へ改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、大学間協定に基づき教育学部、総合科学部、文学部等で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、森戸国際高等教育学院の石原淳也准教授が 1 人で担当しており、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 石原准教授を中心に実施される特別講義、および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と森戸国際高等教育学院にレポートを提出する。森戸国際高等教育学院では毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第 38 期は大使館推薦によるオーストラリアの学生 1 名のみでプログラムを実施した。

<新型コロナウイルス感染症の影響>

2022 年には、コロナの影響が多少残るものの、社会は落ち着きを見せ、渡日時期も例年通り 10 月となった。

通常の見学は例年通り実施したが、3 月の「瀬戸内海しまなみ研修ツアー」については大事を取り実施を見合わせた。その分のうめ合わせとして、5 月にタクシーを借り上げ、大島の村上水軍ミュージアムまで、日帰りでしまなみ海道の見学を行った。

また、コロナ禍以降中止していた島根県松江市、出雲市を巡る「古事記の旅」見学旅行を今年度から再開することとした。

また、修了式、成果発表会は学生の希望で中止とした。

＜特別講義等＞

2022 年度（第 38 期）に実施した行事は以下の通りである。通常、特別講義の内容は、日本語学、音声学、日本の社会、歴史、地理など多岐にわたるが、今年度は対象学生が一人であったため、本人の希望により、主に言語学、音声学、日本語教育学の分野についての講義を実施することとなった。

(担当者)		
10 月		
1 日	広島到着	
6 日	開講式（オンライン）	
7 日	オリエンテーション	石原
14 日	広島見学	石原
21 日	言語学の基礎 1	石原
28 日	言語学の基礎 2	石原
11 月		
4 日	言語学の基礎 3	石原
11 日	言語学の基礎 4	石原
18 日	言語学の基礎 5	石原
25 日	宮島見学	石原
12 月		
2 日	言語学の基礎 6	石原
9 日	音声学入門 1	石原
16 日	音声学入門 2	石原
23 日	音声学入門 3	石原
1 月		
6 日	音声学入門 4	石原
13 日	マツダ見学	石原
20 日	音声学入門 5	石原
27 日	音声学入門 6	石原
2 月		
3 日	休講	
3 月		
	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中止

4 月		
14 日	研修レポート構想発表	石原
21 日	日本語教育学基礎 1	石原
21 日	日本語教育学基礎 2	石原
5 月		
12 日	日本語教育学基礎 3	石原
19 日	日本語教育学基礎 4	石原
26 日	日本語教育学基礎 5	石原
6 月		
2 日	日本語教育学基礎 6	石原
9 日	特別講義「語用論となわ張り理論 1」	石原
16 日	特別講義「語用論となわ張り理論 2」	石原
23 日	特別講義「古事記と出雲神話 1」	石原
30 日	特別講義「古事記と出雲神話 2」	石原
7 月		
7 日	特別講義「古事記と出雲神話 3」	石原
14 日	特別講義「古事記と出雲神話 4」	石原
21 日	研修レポート中間発表	石原
28 日	休講	
8 月		
4・5 日	松江・出雲見学旅行	石原
9 月		
	修了式	中止
	研修成果発表会	中止

短期交換留学生等の日本事情教育・地域連携による国際的体験学習

恒松直美

本稿では、主に広島大学短期交換留学プログラム（Hiroshima University Study Abroad Program, HUSA プログラム）と総合科学部国際共創学科（Department of Integrated Global Studies）の学生に向けて実施した日本事情教育及び地域と連携した国際的体験学習・国際教育について報告する。英語で行う授業，地域学校との国際教育交流，地域行政と協同するインターンシップなど，多国籍留学生と本学学生の国際共修及び学術知と実践知をつなぐ国際的体験学習・アクティブ・ラーニングの発展について述べる。

1993 年に日米文化教育交流会議（The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange：通称カルコン CULCON）が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ，政府支援の下，1995-96 年に 8 国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム（Hiroshima University Study Abroad Program, 以下 HUSA プログラム）は，その 8 国立大学の 1 つとして 1996 年に開始され，積極的に学生交流を促進してきた。その経緯から，当初の本学の短期交換留学プログラムは，米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。その後，プログラムは徐々に拡大し，現在は，世界中に点在する協定大学 114 大学及び 2 つのコンソーシアムと協定を締結し，交換留学生受入れ・派遣留学を発展させてきた（2024 年 6 月時点）。2 つのコンソーシアムは、USAC(University Studies Abroad Consortium) と UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific, アジア太平洋大学交流機構)である。交換留学生の日本への交換留学の主な目的は，日本語能力習得と日本文化体験，日本と関わるキャリア構築の模索，新たな自己発見である。

2023-2024 年度 HUSA プログラム受け入れは 58 名であった。そのうち，28 名が 2023 年度秋学期のみの 1 学期間参加し，30 名が 1 年間参加した。2024 年 4 月からの春学期受け入れでは，12 名が 1 学期間参加した。2023-2024 年度は，通常通り 9 月に渡日することが可能となった。**2023-2024 年度 HUSA プログラム派遣留学**に関しては，1 次募集と 2 次募集を行った。1 次募集については，2023 年 1 月上旬に応募者の選考を行い，2023 年 2 月下旬のグローバル化推進部会で 56 名の派遣が承認された。2 次募集では 2023 年 7 月に選考を行い，2023 年 11 名の派遣が承認された。さらに，2023 年 11 月の部会で追加 4 名の承認があった。

国際共創学科 (Department of Integrated Studies, IGS) は、2018 年に新設された。世界中から集まった学生と一緒に学び、文化間のコミュニケーション能力、互いの相違を認め合う寛容性、国際舞台で求められる多角的視野と思考力と協調性を身に付けることを目的としている。国際共創学科の学生は、「文化と観光」、「平和とコミュニケーション」、「環境と社会」の3つの視点から学ぶ。現在、広島大学では、プログラムの枠を超え、全学の学生が共修する場が構築されつつある。筆者が HUSA プログラムの交換留学生向けに開講した日本事情や国際的体験学習の授業を、現在ではプログラムの枠を超え様々な学生が受講している。“Glocal Internship I: Intercultural Competence in Japanese Society”（「グローバル・インターンシップ I: 日本社会における異文化間能力」），“Glocal Internship II: Intercultural Practicum to Work with Local Japan”（「グローバル・インターンシップ II: 日本の地域社会と協同する異文化間能力育成実習」）森戸国際高等教育学院開講），“Japanese Society and Gender Issues”（「日本社会とジェンダー」）森戸国際高等教育学院開講），“異文化間理解の社会理論と実践」（大学院人間社会科学研究科開講）の授業において、大学教育と地域社会を連携させ、本学学生と留学生が地域学校や地域行政と関わりつつ国際共修する場を構築してきた。本稿では、様々な日本事情と国際的体験学習の授業について振り返る。

◆ 日本の地域社会の文化・歴史見学

2003 年からコロナ禍の前の 2019 年まで、毎年 10 月に HUSA プログラム留学生向けに広島県呉市吉浦秋大祭見学を行い、日本文化の体験学習の機会を提供してきた。コロナ禍により、2020 年、2021 年、2022 年は秋の大祭は中止となり、2023 年に 4 年ぶりに再開された。2023 年度は、「グローバル・インターンシップ I: 日本社会における異文化間能力 (Glocal Internship I: Intercultural Competence in Japanese Society)」のフィールドワークとして訪問した。日本の地域に伝わる祭りの歴史と地域社会の組織や活動について学ぶとともに、広島大学への到着直後から学生間の交友関係を構築し、地域の人々と交流する場として意義ある文化体験の場となってきた。祭りの場では、毎年、バスから下車する留学生と握手する地域の人々の姿と一緒に写真撮影をする姿が恒例となり、地域の方から毎年留学生にはちまきの提供がある。地域の人々による留学生の暖かい歓迎は、留学生の新しい留学生活の門出を祝う場となるとともに、地域の人々が世界各国の留学生と出会う場となってきた。



◆「グローバル・インターンシップ」：地域社会との連携による国際的体験学習

2003 年度から 2011 年度まで、春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年春学期に HUSA プログラム留学生の受講生を地域企業と東広島市役所に 2 週間派遣した。2005 年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、留学生が日本社会の慣習や礼儀を理解したうえでインターンシップに参加する体制を充実させた。2010 年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開催し、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来のキャリアと留学を考える機会を作った。また、2010 年度後期からは社会体験者講話に基づいた PBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生のグローバルな視野からのアクティブ・ラーニングの場を構築した。

2012 年度秋学期からは、「グローバル化支援インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ：実習」と題し、新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。地域の国際観光振興や多文化共生の地域づくりに貢献しつつ日本社会について学ぶことを目指し、留学生の国際的体験学習の企画や、地域の小学校・中学校・高校における国際交流も企画した。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図ったプロジェクト型「グローバル化支援インターンシップ」では、留学生の持つ日本文化の概念的知識を地域と協働して実践知として生かし、体験から学ぶ国際的体験学習の場を構築した。留学生がリーダーシップを発揮しつつ自らマネジメントを行うプロジェクトは、留学生に多角的な学びをもたらしてきた。

2019 年度より「グローバル・インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル・インターンシップⅡ：実習」と題して開講した。2014 年頃より地域行政との連携をより強化し、留学生が日本の地域社会と連携し協働する力を育成しつつ地域国際化を促進するプロジェクト型インターンシップを発展させた。地域行政の協力を得て、2015 年から 2020 年まで、毎年 2 月に、担当教員の指導のもと、留学生インターンが呉市倉橋町で開催される「倉橋フェスティバル」に参加し、国際交流企画を提示し、地域の人々と交流した。その実践に向け、毎年 11 月に『「地域と大学が協働で創る多文化共生社会」公開国際セミナー』を広島大学で開催し、呉市行政関係者より企画の承認と助言を得てきた。セミナーには、呉市産業部観光振興課、呉市倉橋町の観光ボランティアガイドの会、倉橋町自治会、呉市議会、などの行政関係者を招聘し、留学生が地域社会の課題について学ぶ機会を持つとともに、留学生インターンによる国際交流企画のプレゼンテーションを行ってきた。毎年約 12,000 人の訪問客が訪れる商業祭「倉橋フェスティバル」において、地域住民と留学生が交流する場をインターンが企画し実現する貴重な実践学習の場となった。継続した実施により、呉市行政及び倉橋町の地域関係者からの協力が強化され、地域国際化の恒例行事として、地域住民の支持の輪が広がっていった。



2021年度は、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、秋学期の時点では、留学生の日本への入国が許可されていなかったため、本授業はオンラインで実施した。倉橋フェスティバルが中止となったため、代替の企画として2022年1月に呉市立倉橋中学校との国際教育交流企画をオンライン実習として実施した。「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)留学生インターンと呉市立倉橋中学校との国際交流会」と題し、タイ・中国出身の留学生が中学校とのオンライン国際教育交流を企画し実施した。実習では、タイと中国の文化を紹介するとともに、留学生の母国に関するクイズを出題し、中学生との異文化間インタラクションを起こす実践を行った。本実習の実現に向け、2021年12月に、呉市行政の協力を得て「地域と大学が協働で創る多文化共生社会」地域公開国際セミナーをオンラインで開催し、地域行政関係者より示唆を得た。過去に本授業で実習を体験し、現在日本で就労しているOBインターン留学生（韓国出身）にもオンラインでの参加を依頼し、インターンシップの体験が自身のキャリアに与えた影響について体験談を聞いた。現在JETプログラムのALT（Assistant Language Teacher）として沖縄で勤務するアメリカ人のOBインターン留学生（HUSAプログラム2019-2020年度参加）も参加した。さらに、留学生との異文化間教育の共修の導入を検討する広島県の高等学校教員も参加した。

2022年度からは、新たに“Glocal Internship I: Intercultural Competence in Japanese Society”（「グローバル・インターンシップⅠ：日本社会における異文化間能力」），“Glocal Internship II: Intercultural Practicum to Work with Local Japan”（「グローバルインターンシップⅡ：日本の地域社会と協働する異文化間実習」）として、内容を刷新し授業を開講した。Ⅰの授業を英語で開講し、日本語能力が初級・中級の留学生も受講可能とした。これにより、日本文化・日本社会における異文化間能力に関する知識習得と実践についてより幅広い留学生の受講が可能となった。日本社会と関わる力をつける授業の英語での開講を希望する声は以前からあった。「日本社会と関わるためには日本文化の知識が必要。英語で授業できるなら受講したい。」との切なる声である。異文化間理解に関する理論や日本社会の価値観や行動様式などの内容を網羅するとともに、地域学校・地域行政・企業と実際に関わりインタラクションする場も盛り込んだ。

本授業で重要視した点の1点目は、多国籍の留学生間でのチームワーク構築である。グループワークや他の受講者とコミュニケーションをするワークをほぼ毎週行い、学生間のラポールを形成した。これらは、グループプロジェクトにおいて学生間の協力を促し、ダイバーシティの力を最大限に引き出すことにつながる。多国籍留学生が協働することで、日本の地域社会とつながる場で様々な力を発揮できる。「お世話になります」グループワークでは、実際の学校訪問の際の組織・個人の関係性と立場についてグループで話し合い、この表現をどこで使用するべきかについて考察する機会を持った。



重要視した第2点目は、異文化間理解・異文化間コミュニケーション・日本文化に関する理論的理解を、留学生が実際に日本の学校・行政・企業と関わりつつ実践する体験を持つことである。体験学習の場として、銀行における実習(11月)、地域学校との国際教育交流(11月)、広島大学公開講座(12月)の場、地域行政との多文化共生社会を目指す公開国際セミナー(12月)、を設定した。第1回目の広島銀行における実習では、営業店の現場見学、名刺交換、電話対応実習、折り紙体験による交流を実施した。第2回目の実践の広島県立日彰館高等学校との国際教育交流では、高校を訪問し、異文化間接触を起こすプロジェクトを実践した(詳細は「留学生と地域学校との国際教育交流」を参照)。「留学生と日本の高校生の異文化間インタラクションを起こす方法」というテーマで、4~5人の3グループが、各教室でプロジェクトを実践し、高校生とインタラクションを起こす実践を行った。授業では、リハーサルを数回実施し、教員からのフィードバックをもとに、綿密に内容を練り、改善を重ねていった。



2023年12月には、呉市行政の協力を得て「地域と大学が協働で創る多文化共生社会」地域公開国際セミナーを対面で開催した。呉市行政関係者(呉市観光振興課職員及び呉市

議会議員）を招聘し、「世界に向けた観光振興の課題」と題して講義をいただいた。留学生からは、「日本の地域の魅力を留学生に伝える方策—外国人が魅力を感じる企画の提案：留学生の視点から」と題したプレゼンテーションを行い、外国人から見た日本観光に対する新しい視点を提示した。留学生と地域関係者とで、地域の観光を世界に開く施策について議論し、双方にとり意義ある意見交換の場となった。これらの体験は、留学生が、日本の地域行政の人々との人としての関りを通じ、自身の日本文化への興味や知識が日本の現場で生かされることを実感する体験である。留学先の地域社会における重要課題をテーマとして設定することにより、留学生と行政の双方にとり相互支援となる意義ある意見交換の場を構築できている。「グローバルインターンシップⅡ：日本の地域社会と協同する異文化間能力育成実習」の授業では、名刺交換・自己紹介・挨拶・電話応対などより実践を重視した。受講生は名刺を作成し、名刺交換の練習を授業で何度も行ったうえで、公開国際セミナーで名刺交換を実践した。日本のビジネスの現場で社会人と名刺交換をする経験は、日本の礼儀を実体験する貴重な体験である。



第3回目の実践は、2023年12月に開催した「広島大学公開講座」である。公開講座の参加者と合同で参加し、異文化コミュニケーション、カルチャーショック、異文化間リテラシー、文化の構成要素、文化の次元などの講義を受けた。ここでもラポール形成となるグループワークなどを導入し、留学生と市民がお互いを知り交流できる内容にした。異文化体験について実体験を交えて共に話し合ったり、留学生が日本社会で驚いたことをグループで対話する場を設けた。

◆ 地域高校における「異文化間理解能力育成研修」

2023年第2タームの“Intercultural Competence and Japanese Society”（「異文化間能力と日本社会」）と題した英語による受講においても地域学校での実践を行った。本授業では、異文化間理解に関する理論を学びつつ、留学生が日本の地域社会（学校・行政・企業）と関わり、日本社会における異文化間能力について実践を通して学ぶ授業である。2023年7月に広島県立広高校において「異文化間能力育成研修」を実施した。スペイン、ドイツ、インドネシア、中国出身の広島大学学生7名が参加した。「異文化間理解の社会理論と実践」

(大学院)の受講生のうち中国出身の3人も合同フィールドワークとして参加した。高校生約200人が参加する大規模な研修となった。

内容は、3部から構成され、第1部を高校生のSDGs研究への留学の支援、第2部を留学生と高校生1学年との国際教育交流、第3部を留学生による「異文化間インタラクション」実習、とした。第1部では、SDGsの「平和・平和教育」、「飢餓」、「日本語教育」、「がん対策・美術館」のテーマに関するグループ研究に取り組む高校生から留学生に質問をし、留学生の視点を学ぶ場とした。第2部の全体会では、まず全員の自己紹介とそれに関するインタラクションを行い、引き続き、ドイツとスペイン出身の学生が、自己紹介のスピーチを行った。次に、留学生に質問をしてグループで共有するスピードを競うゲーム等を行った。第3部では、“Intercultural Competence and Japanese Society”授業の受講生が「高校生と異文化間インタラクションを起こすプロジェクト」のテーマでプロジェクト実践を行った。第4部はホームルームと掃除の見学、茶道部の茶会体験、和紙を使用した箸入れの作成を高校生と行った。最後に体育館で剣道部の練習を見学した。



◆ 留学生と地域学校との国際教育交流

HUSA プログラム留学生は、2014 年度より、広島県立日彰館高等学校による「日彰館高校グローバル人材育成プログラム」の一環として開催される「おもてなしホームステイ」に参加してきた。その一環として、おもてなしプラン「国際交流行事」を2015 年度より筆者が企画し、留学生によるスピーチ発表や高校生・教職員・留学生の異文化インタラクションの場を構築してきた。2020 年度以降は、筆者の授業である“Japanese Society and Gender Issues”（「日本社会とジェンダー」）と“Glocal Internship”（「グローバル・インターンシップ」）の授業の受講者のフィールドワークとして企画している。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症(Covid-19)によりオンラインで開催することとなった。地域中学校・小学校や地域住民からも参加を得、200名を超える国際交流会を11月20日にオンラインで開催し、筆者の授業である“Japanese Society and Gender Issues”(「日本社会とジェンダー」)と“Glocal Internship”(「グローバル・インターンシップ」)の授業の受講者が参加した。2021年度も、引き続き授業の一環としてオンラインで国際交流会を11月4日に開催した。広島大学学生22名、日彰館高等学校生徒178名、吉舎中学校1年生22名、吉舎小学校6年生16名など、参加者は200名を超えた。「おもてなしタイム」では、書道・剣道の日本文化紹介、中学校の平和学習発表、地域紹介、ホストファミリーの挨拶があった。留学生は英語と日本語による自己紹介のスピーチを行った。イギリス・フランス・アメリカ・メキシコ・ロシア・中国・香港・タイ・バングラデシュ・日本からの参加者がオンラインでつながる体験となった。

2022年度は、3年ぶりに対面で開催した。筆者の授業“Glocal Internship”(「グローバル・インターンシップ」)と“Japanese Society and Gender Issues”(「日本社会とジェンダー」)の受講生がフィールドワークとして日彰館高校における授業と国際教育交流に参加した。イギリス・フィンランド・アメリカ・スペイン・ドイツ・中国・台湾・香港・韓国・日本からの交換留学生が参加した。留学生を含む広島大学学生36名、日彰館高等学校生徒147名、三次市吉舎中学校1年生9名、広島県三次市立吉舎中学校長、同窓会事務局長(ホストファミリー経験者)、教職員17名の計211名が参加した。さらに、53名の生徒が、安全の観点から学校内でオンラインにより全体会と吉舎街歩きガイドツアーに参加した。

2022年度は、「全体会」・「クラス交流」・「街歩きガイドツアー」の3部構成で実施した。筆者は、全体会とクラス交流の部分において、大学の授業と高校における国際教育交流とを連携させ、双方の異文化間能力を引き出し延ばす教育の場を構築することを試みた。サードカルチャーを作り出すことで、交換留学生・広島大学学生・高校生の異文化間インタラクションを引き起こす実践を行ってきた。

まず**全体会**では、留学生のスピーチと自己紹介を行った。引き続き、グループ・アクティビティのセッションでは、留学生2〜3人と高校生6〜7人のグループ内での自己紹介、留学生・高校生の相互からの質問、絵カードを使用したクイズ、高校生からのクイズを行った。グループで内部でのインタラクションを全体に反映できるよう司会進行し、英語と日本語を使用することで、全体で理解しつつ進められるようにした。

クラス交流では、1年生・2年生・3年生の各2クラスの6クラスにおいて、“Glocal Internship”(「グローバル・インターンシップ」)授業の3グループと“Japanese Society and Gender Issues”(「日本社会とジェンダー」)の5グループが、アクティビティまたはディスカッションを行った。第1ラウンドと第2ラウンドでクラスを移動することで、留学生が

2つの異なるクラスの生徒と協同学習ができるようにした。まず初めに高校生が「日本文化の紹介プレゼンテーション」を行った。俳句、神楽、陶芸、折り紙、和菓子、お好み焼き、わび・さび などについて各クラスで紹介し、剣道とけん玉のワークショップを行った。「グローバル・インターンシップ」受講生は、「留学生と日本の高校生の異文化間インタラクションを起こす方法」を考案し、アクティビティやゲームを行った。「日本社会とジェンダー」の受講生が参加したクラスでは、留学生と高校生の双方がジェンダーに関する質問をし合った。

街歩きガイドツアーでは、留学生と高校生 4～5 人のグループを作り、高校周辺を一緒に歩き、高校生が地域の歴史や文化を留学生に伝える試みを行った。留学生は、自由な雰囲気の中で高校生と一緒に街を歩き、コミュニケーションを楽しみながら親交を深めるこの体験を高く評価している。高校生も留学生と親交を深めた大切な思い出となっている。

2023 年度も同様の形式で実施した。高校生の日本文化紹介では、しまなみ海道、折り鶴、日本刀、影絵、アニメ、空手、茶道、漫画、漫才、広島食文化、建前、日本の昔話、無形民俗文化財の沖江田楽などを紹介し、折り紙・羽根つきを留学生と体験した。街歩きガイドツアーにおける神社訪問や神主さんとの交流や和太鼓の体験など、高校生と地域の人々との交流は、現地で体験する伝統文化体験となっている。お別れ式では、手渡された写真とメッセージ入りのカードを留学生が受け取り感激する姿があった。留学生がホスト国で現地の人々に歓迎されたと感じることは、学生がホスト国を留学先として選択した意味を再確認し、今後のホスト国との関係性の認識に影響するほどの重要性を持つ。



◆ 広島大学公開講座

2017 年度より、広島大学公開講座「グローバル社会・大学・地域を結ぶ～異文化との接触に備えて～」を開講してきた。留学生にも参加を促し、英語・日本語を使用して世界各国からの留学生の意見も聞きつつ、留学生と地域の人々とのインタラクションを起こす形式で実施してきた。新型コロナウイルス感染症(Covid-19)により対面での開催が困難となり、2021 年度はオンラインでの開講となった。さらに、2021 年度より、英語・日本語使用で公開講座を開講し、より幅広い市民の参加を目指すとともに、地域社会と留学生をつなぐ場を発展させてきた。2021 年度は 6 月 16 日・23 日のオンラインによる講座には、広島大学短期交換留学プログラム (HUSA) 留学生と「異文化間理解の社会理論と実践」を受講している大学院生が参加した。HUSA プログラムからは、イギリスのカーディフ大学出身の留学生とアメリカ在住の USAC (University Studies Abroad Consortium) 留学生が参加した。コロナ禍での異文化体験や異文化間での礼儀の相違に関する見解など、留学生の貴重な体験を参加者と共有することができた。オンラインの公開講座には全国から様々な異文化体験を持つ方々の参加があった。日本留学に関する留学生の声を聞きつつ、異文化間コミュニケーションやカルチャーショックについて相互の体験を共有し共に考える場となった。

2022 年度は、12 月に広島大学ミライクリエにて対面で実施した。“Glocal Internship I: Intercultural Competence in Japanese Society”(「グローバル・インターンシップ I : 日本社会における異文化間能力」), “Glocal Internship II: Intercultural Practicum to Work with Local Japan”(「グローバル・インターンシップ II: 日本の地域社会と協働する異文化間実習」) の授業の受講生が公開講座に参加して実施することで留学生と地域の人々が共修できる場を構築した。第 1 回は「異文化との接触：カルチャーショック」、第 2 回は「異文化コミュニケーション：文化の構成要素」と題して行った。また、公開講座において、留学生が「日本でびっくりしたことー留学生の知りたい日本文化」と題したプレゼンテーションを行い、日本での実体験を伝えた。2023 年度も同様に企画し、留学生と地域の人々がより多く話せるよう進行した。

総括

留学生に向けて実施する日本事情教育及び地域と連携した国際的体験学習は、毎年進化をとげている。対面・オンライン・ハイブリッドによる教育方式を、コロナ禍への対応という枠を超え、日本と世界とをつなぎ国際教育の場を拡大する目的で活用している。国際共修の場は、日本在住の留学生・海外在住の留学生・留学生 OB・日本出身の学生・地域の高校生・地域の人々が共に参加する世界をつなぐ場となった。留学生は、日本文化と日本社会への強い興味と将来的な日本とのつながりを求めて日本に留学する。留学生が広島大学の学生及び地域社会・地域学校と関わる経験は、日本の人々と人として関わり、日本を実体験する貴重な体験である。「人」とつながる体験学習には新しい発見も多く、留学

生は、自ら考え動く主体として関わる体験から学び、日々刺激を受け、新しい目標を作り出している。同時に、留学生と接触する地域高校生や地域の人々も希少な機会から様々にその意味を感じ取る様子があった。ホスト国の日本人と関わる国際的体験学習は、留学生と地域の人々の双方に意味ある体験をもたらしている。

JOP プログラム（日本語・日本文化オンライン・プログラム） 2023 年度報告書

迫田久美子・荒見泰史・陳斐寧

1. はじめに

日本語・日本文化プログラム（以下、本プログラム）は、本学と大学間交流協定または部局間交流協定を締結している中華人民共和国の大学に在学する学部学生を対象に、日本語・日本文化教育をオンライン（同時双方向型）で実施することにより、当該学生の日本語能力と日本文化に対する知識を深め、日本への留学に必要な日本語スキルを向上させることを目的とする。具体的には、日本語能力試験(JLPT)N4、N3 レベルの日本語能力を N2 レベル以上に引き上げることを目指す。

1.1 出願資格

以下の(1)及び(2)に該当する者とする。

- (1) 本学と大学間交流協定または部局間交流協定を締結している中国の大学に在学し、中国に在住している学部学生。
- (2) 広島大学森戸国際高等教育学院のオンライン・プレースメントテスト（日本語能力試験（JLPT）N4 以上の能力を測定する試験）を受験していること。

1.2 受け入れ学生概要

第三期（2023 年 10 月—2024 年 6 月）：6 名

1.3 実施期間

2023 年 10 月～2024 年 6 月

2. 授業の流れ

2.1 プログラムで履修する授業科目

本プログラムを受講する学生は、広島大学特別聴講学生として、以下の授業科目を全て履修する。修了要件単位数：14。単位了者には広島大学特別聴講学生としての学業成績証明書を発行し、「日本語・日本文化オンライン・プログラム（日语・日本文化网络课程）修了証書」を授与する。

科目区分	授業科目	単位数	履修期(日本時間)(予定)	履修区分
日本語 科目	オンライン初級日本語A	2	2023 年度第 3 ターム (月曜、火曜/19:00-20:30)	必修
	オンライン初級日本語B	2	2023年度第 3 ターム (水曜、木曜/19:00-20:30)	
	オンライン中級日本語A	2	2023 年度第 4 ターム (月曜、火曜/19:00-20:30)	
	オンライン中級日本語B	2	2023 年度第 4 ターム (水曜、木曜/19:00-20:30)	
	オンライン中上級日本語A	2	2024 年度第 1 ターム (月曜、火曜/19:00-20:30)	
	オンライン中上級日本語B	2	2024 年度第 1 ターム (水曜、木曜/19:00-20:30)	
日本文化 科目	東アジア文化の世界A	1	2023 年度第 3 ターム (集中)	必修
	東アジア文化の世界B	1	2023年度第 4 ターム (集中)	

2.2 指導方針

本プログラムの目的は、学生に日本語と日本文化の深い理解を提供し、彼らの言語能力を高めることである。このプロセスを通じて、参加者は日本への留学を見据え、JLPT 日本語能力試験 N2 レベル以上の合格を目指す。指導方針として、まず授業の前半において基礎学力の養成を最重要課題とする。ここでは、文法や語彙、リスニングスキルの強化を通じて、学生の日本語の基礎をしっかりと築くことを目指す。基礎を固めることにより、学生は自信を持って日本語を使うための土台を手に入れる。後半に移ると、実践的な能力の育成に重点を置く。テーマに基づいた発表やディスカッションを通じて、自由な日本語表現能力を育むトレーニングを実施する。これにより、学生は自分の考えを論理的に組み立て、他者と意見を交わす力を身につける。具体的なテーマ設定を通じて、彼らの興味を引き出し、より活発な学びを促進する。

また、年間を通じて行うシャドーイングトレーニングや、日本文化に関する「東アジア文化の世界」授業の学習は、広島大学ならではの特色を反映した内容である。このように、本プログラムでは、基礎から応用までの包括的なアプローチを取り入れ、教育環境を最大限に活用し、学生一人ひとりの成長を引き出す。結果として、彼らは日本での学びや生活において、必要なスキルと知識を備えた国際的な人材へと成長していく。

3. 学習カウンセリング制度

本プログラムでは、学生一人ひとりの学びを支援するために、二つの特有害な取り組みを

行っている。

3.1 自主学習のサポート（オフィスアワー）

毎週1回（金曜）設けられるオフィスアワーでは、学生が日常の授業や試験の結果を踏まえて、個別に学習計画を見直すことができる。この時間は、主任教員が学生の日本語能力を技能別（語彙・文法・読解・聴解など）に評価し、具体的な学習法を提案する場となる。例えば、特定の文法項目や語彙に関する理解が不十分な学生には、補助教材を用いたり、実践的な練習問題を提供することで、弱点を克服する手助けを行う。さらに、学生たちからの質問や、シャドーイングの確認練習、学習の相談など、多様なニーズに応じた指導が行われる。学生はこの時間を通じて、自分のペースで学びを深めることができるため、自己学習の意欲が高まるというフィードバックが寄せられている。

3.2 日本人学生によるチューター制度

本プログラムでは、広島大学の日本人学生がチューターとして、プログラム受講生一人ひとりをサポートする取り組みも行っている。チューターは週に2回、担当する受講生と30分程度の日本語の会話練習を行う。この練習では、日常会話や特定のテーマに基づいたディスカッションを通じて、学生の日本語運用能力を向上させることを目的としている。また、チューターは受講生の日本語に関する質問に応じたり、日本と中国の文化の違いについて意見交換を行ったりすることで、相互理解を深める役割も担っている。このようなコミュニケーションを通じて、学生は日本語を実際の場面で使用する機会を得ると同時に、自信を持って発言できる環境が整えられている。

3.3 学習成果の確認とフィードバック

学習カウンセリング制度を通じて、学生は定期的に自身の学習成果を確認し、進捗を把握することができる。例えば、オフィスアワーでの相談後には、次回の学習目標を設定し、具体的なアクションプランを策定する。これにより、学生は自分の成長を実感しやすく、学習に対するモチベーションを維持することが可能となる。また、チューターからのフィードバックも重要な要素である。同世代のチューター学生との会話を通して、より効果的な学習を促進する。このように、学習カウンセリング制度は学生一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな支援を提供し、成長を後押しする仕組みとなっている。このように、学習カウンセリング制度は、学生の日本語能力向上や文化理解を支える重要な柱となっており、今後も継続的に改善を図りながら、参加者の成長をサポートしていく。

4. 具体的な成果

4.1 日本語能力の向上

本プログラムでは、日本語能力の向上を測定するために、オンライン日本語テスト「J-CAT」を活用した。計3回のテストを実施し、参加者の学習成果を定量的に評価した。初回のテスト（2023年10月12日）から最終テスト（2024年5月20日）までのデータを分析したところ、全員が顕著な成長を遂げていることが明らかになった。J-CAT のスコアについて個人差はあるものの、以下の図1のグラフから三期生全員の日本語の学習達成度が着実に向上していることが判断できる。

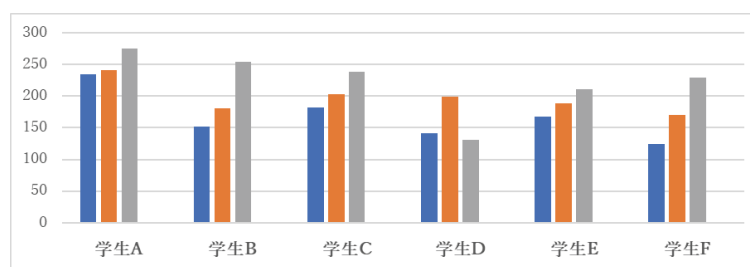


図1 履修学生の時期別における J-CAT の結果

図1によると、修了前の3回目のスコアは275点から211点の範囲で、特に学生D（視覚的な制約が影響したため）を除く全員が200点以上を達成している。中でも、2名の学生は初回から100点以上のスコアアップを果たし、その成績はJLPT N1 前半からN2 後半に相当するレベルに達している。このような成績の向上は、プログラムの指導方法や学習環境が効果的であったことを示している。

4.2 成果発表会

4.2.1 修了スピーチ

プログラムの集大成として行われた成果発表会では、学生たちがスライドを用いて個々の研究テーマについて発表した。各発表は、質疑応答を含め15分間で行われ、多様な視点からのアプローチが際立っていた。発表内容は以下の通りであり、いずれも学生の個性や思考力が存分に表現されたものである。

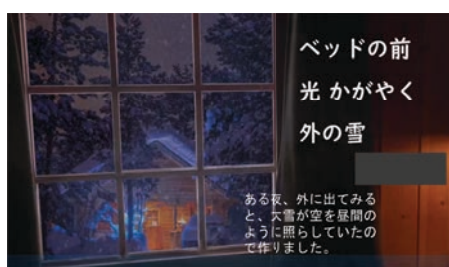
- 「同じ樹から生まれる『縁』という名の異なる果実」
この発表では、文化的な繋がりについて考察し、日本と中国の共通点と相違点について探求している。
- 「子供は風の子・大人は火の子」
子どもの成長における環境の重要性をテーマにし、文化の影響を分析している。
- 「人生の主役になれる大学生生活」
大学生活の意義についての自らの経験を交えながら、自己成長のプロセスを語っている。
- 「ゲームをしてもいいですか？」
ゲーム文化が日本と中国でどのように異なるかを比較検討し、文化の影響を考察している。
- 「デリバリーは食生活の救世主？」
現代の食文化におけるデリバリーサービスの役割を探究することで、時代の変化に対する考察を行っている。
- 「『孝行』の中国人と『調和』の日本人」

日本と中国の価値観の違いについて考察し、両国の文化的背景を掘り下げている。

これらの発表は、学生の分析力、表現力、コミュニケーション能力の向上を示しており、本成果発表会は参加者同士の知見を深める貴重な場となった。

4.2.2 修了式の写真俳句

修了式では、一人ひとりの学生が自前の写真やネットの写真を用いて、思い思いの観点から自作の俳句を披露した。



こつこつと学ぶのは、昨日蒔いた種が、知らず知らずのうちに もう実を結んでいるようです。種を世話してくださった先生方に感謝します！ありがとうございました！



浙江省は最近ますます暑くなってきました。このような天気では人は元気が なくなりますが、エアコンをつけると生き返ったようです。そんな起死回生 の力を持つとは、やはり、エアコンは神様なのでしょう。



やれば成るのです。他の人ができることは、私は必ずできるし、他の人ができないこともできます。1つのことに集中し続ければ、どんな困難も克服できると思って、この俳句を作りました。



私は見上げて、星空をおき見て、星空の上で、無限の見守りです。 この文章を書いたとき、私は小説を読み終えたところでした。 それに、触発されて、俳句を作りました。



50 二人三脚 Stock Photos, High-Res Pictures, and Images - Getty Images / パートナー 氏、重松氏

たくさんの先生と出会い、二人三脚のように、たくさん助け ていただきました。これからも一つの目標に向かって、一人 で歩けるようにがんばりたいと思って作りました。

4.3 総括的な成果

本プログラムを通じて得られた総括的な成果は、単に学生の日本語能力の向上に留まらず、留学への道を開く多面的な成長を促進するものとなった。

(一) 言語能力の総合的向上

日本語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの各技能がバランスよく向上した。実践的な会話トレーニングやディスカッションを通じて、学生たちは自信を持って日本語を使用する能力を培い、留学後の学問や生活に直結するスキルを磨くことができた。

(二) 日本文化理解の深化

日本語学習を通じて、日本文化や社会についての理解が深まった。授業や課題を通じて、学生たちは日本の伝統、習慣、社会的価値観に触れる機会を得て、留学後に直面するであろう文化的な違いに対する適応

力を高めることに成功した。

(三) 国際交流の促進

プログラムを通じて、学生たちは日本と中国の文化的違いを実際に体験し、相互理解の重要性を実感することができた。彼らの交流は、国際的な友好関係の構築につながり、今後の国際的なネットワークを広げる土台を作ることができた。留学を通じてこのネットワークを活かし、学問的な支援や情報交換が期待される。

(四) 日本留学への道を開く

本プログラムの三期生の中から、1 名が日本への留学を決定している。その他の学生たちも留学に向けた準備を進めており、みな日本の大学での学びに期待を寄せている。ここから、本プログラムが具体的な留学の一步となったことは明らかである。

このように、本プログラムは単なる言語教育を超え、参加者全員の総合的な成長を促進し、広島大学への留学への道を切り開く多様な成果を上げることができた。今後もこの取り組みを継続し、さらなる発展を目指していくことが期待される。

5. おわりに

本学と大学間交流協定または部局間交流協定を締結している中華人民共和国の大学に在学する学部学生に対し、オンラインで広島大学の授業を提供する事業は、本学にとって初めての試みとなる。第三期の事業は無事に終了し、参加学生たちにとっては有意義な学びの場となったといえよう。

最後に、授業を提供してくださった学内外の教員や、本プログラムを支えてくださった職員の皆様に深く感謝申し上げます。特に、オンライン授業の運営においては、技術的なサポートや教材の準備など、多方面からの協力があつたことが成功の要因である。また、参加学生からのフィードバックをもとに、今後のプログラムの改善や内容の充実を図ることを考えている。これにより、さらなる学びの深まりと日本語教育の質の向上を目指す。今後もこのプログラムを継続し、海外の学生に対して日本語・日本文化教育を提供し続けることが、国際的な交流と理解を深める一助となることを期待している。参加者一人ひとりの成長を見守りながら、次回のプログラムもより良いものとするために努めていきたい。

なお、募集要項等については森戸学院のホームページを参照のこと。

https://www.hiroshima-u.ac.jp/international_center/study_at_hu/jop_guide

日本語・日本文化特別研修プログラム

小宮山道夫

本プログラムは、母語に漢字を使用する国及び地域にあたる漢字圏と、それ以外の非漢字圏の大学で日本について学んでいる学生を2週間本学に受入れ、研修生が、日本語・日本文化の講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、日中及び日台間そして日本と諸外国との交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として2010年度夏から実施してきたものである。

2023(令和5)年度は、夏期は台湾コース、非漢字圏コースの2プログラムを対面で実施し、広島空港からの直行便が再開しない中華人民共和国はオンラインで実施した。プログラム決定後の7月25日に分かることだが北京からの広島直行便再開は中国コースオンラインプログラム最終日の8月25日であった。冬期については、中国コースと台湾コースと非漢字圏コースすべてを対面で、中国コースについてはハイブリッド形式での同時配信を行うオンラインも設定して実施した。

また、2019年5月に実施して以来、コロナ禍で中断していた長春大学特別支援プログラムを秋期プログラムとして提供することができた。このプログラムは2017年10月より当時の大学院教育学研究科特別支援教育学講座・附属特別支援教育実践センターと共同で提供を開始したものであり、今年度からは4月に改組発足したダイバーシティ&インクルージョン推進機構・特別支援教育実践センターとの共同提供として実施することとなった。今期は聴覚障がい者10名と引率教員3名を受け入れることができた。

夏期 (台湾)	7月 6日(木) ~ 7月 21日(金) (16日間)	9名	(対面)
(非漢字圏)	7月 23日(日) ~ 8月 7日(月) (16日間)	4名	(対面)
(中国)	8月 16日(木) ~ 8月 25日(金) (10日間)	79名	(オンライン)
秋期 (特別支援)	10月 17日(火) ~ 10月 24日(火) (8日間)	10名	(対面)
冬期 (台湾)	1月 13日(土) ~ 1月 26日(金) (14日間)	34名	(対面)
(非漢字圏)	1月 27日(土) ~ 2月 9日(金) (14日間)	16名	(対面)
(中国)	2月 13日(月) ~ 2月 24日(土) (12日間)	78名	(対面)
(中国)	2月 14日(火) ~ 2月 24日(金) (10日間)	68名	(オンライン)

年間の参加者総数は288名であった。非漢字圏コースの国別内訳は夏期がベトナム社会主義共和国4名、冬期がベトナム8名、インドネシア共和国6名、リトアニア共和国2名

であった。

各プログラムの日程は以下の通り。

2023 年度夏期広島大学日本語・日本文化特別研修（台湾） 日程表

日	曜日	午前		午後			
		1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目	5コマ目	夜間
時 間		8:45-10:15	10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05	16:20-17:50	
7月6日	木				研修生受け入れ準備 (交流学生事前学習)		来日 (広島空港出迎え)
					小宮山 道夫・交流学生		
7月7日	金	開講式・オリエンテーション	日本の絵画 —絵巻物の世界—	東広島市の歴史と文化	東広島市歴史文化研修 三ツ城古墳、酒蔵通り散策、御建神社・安芸国分寺見学		
			金田 晋	学生交流・相互学習	小宮山 道夫・交流学生		
7月8日	土	風呂敷と日本人の暮らし	日本社会と儀礼 —西条祇園祭体験—	学内見学事前学習	学内見学		
		小倉 亜紗美	小宮山 道夫	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
7月9日	日	「わかる」から「できる」へつながる日本語コミュニケーション	日本の伝統スポーツと礼	日本の防災	広島市の歴史と文化		
		迫田 久美子	渡部 和彦	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
7月10日	月	現代日本における少子化問題	日本語音声学・音韻論	留学説明会・研究室訪問			
		今川 真治	石原 淳也				
7月11日	火	宮島・錦帯橋歴史文化研修 錦帯橋、厳島神社見学、宮島散策					
		小宮山 道夫・交流学生					
7月12日	水	日本の建築	けん玉文化	日本語学習法の創意工夫	広島市の歴史と文化		
		高原 良彦	DAMA けん	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
7月13日	木	広島市歴史文化平和研修 広島城、OKOSTA(お好み焼き体験)、旧陸軍被服支廠跡、マツダミュージアム、平和記念資料館(原爆資料館)、原爆ドーム見学					
		小宮山 道夫・交流学生					
7月14日	金	休日					
7月15日	土	日本アニメの基礎知識		成句の起源と文化	日台文化比較		
		百々 隆雄		学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
7月16日	日	日本人の名前と歴史	世界遺産宮島の歴史と文化	日台教育比較	日本語音韻と詩作技法		
		小宮山 道夫	荒見 泰史	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
7月17日 海の日	月祝	入門期の指導	日常生活の日本語	日本語プレゼンテーションの理論と実践	古典的遊戯の原理と実践	京都の歴史と文化	
		西口 光一	本田 義央	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習	
7月18日	火	京都歴史文化研修(1日目)移動	伏見稲荷大社、清水寺・清水坂見学		和菓子文化演習	豊国神社・方広寺、八坂神社・祇園見学	京都文化と科学と芸術—茶の湯を中心に—
			小宮山 道夫・交流学生		甘春堂東店	小宮山 道夫・交流学生	太田 達 (立命館大学)
7月19日	水	京都歴史文化研修(2日目) 龍安寺、鹿苑寺(金閣寺)、嵐山、北野天満宮、六角堂見学			生け花文化演習	移動	
		小宮山 道夫・交流学生			池坊華道会	小宮山 道夫・交流学生	
7月20日	木	「日本語力」をつける方法	折り紙文化	成果発表会・修了式		送別会	
		陳 斐寧	ハーレー静代				
7月21日	金	帰国 (広島空港見送り)		研修生宿舍片付け (交流学生事後学習)			
		小宮山 道夫・交流学生		小宮山 道夫・交流学生			

2023 年度夏期広島大学日本語・日本文化特別研修（非漢字圏） 日程表

日	曜日	午前			午後		
		1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目	5コマ目	夜間
時 間		8:45-10:15	10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05	16:20-17:50	
7月23日	日				研修生受け入れ準備 (交流学生事前学習)		学生街案内
					小宮山 道夫・交流学生		学生交流・相互学習
7月24日	月	開講式・オリエンテーション	折り紙文化 ハーレー静代	各国交流史考 学生交流・相互学習	学内見学 学生交流・相互学習		
7月25日	火	日本の建築 高原 良彦	日本の伝統スポーツと礼 渡部 和彦	東広島市の歴史と文化 学生交流・相互学習	東広島市歴史文化研修 三ツ城古墳、酒蔵通り散策、御建神社・安芸国分寺見学 小宮山 道夫・交流学生		
7月26日	水	教室では習わない日本語 佐藤 暢治	日本の絵画 —絵巻物の世界— 金田 晋	日本語学習法の創意工夫 学生交流・相互学習	広島市の歴史と文化 学生交流・相互学習		
7月27日	木	けん玉文化 DAMA けん	暑中見舞いを書いてみよう 永田 良太	各国文化比較 学生交流・相互学習	生け花文化演習 菅崎 奈々子		

7月28日	金	広島市歴史文化平和研修 広島城、OKOSTA(お好み焼き体験)、マツダミュージアム、平和記念資料館(原爆資料館)、原爆ドーム見学 小宮山 道夫・交流学生			
7月29日	土	日本アニメの基礎知識 百々 隆雄	成句の起源と文化 学生交流・相互学習	日本語音韻と詩作技法 学生交流・相互学習	
7月30日	日	「わかる」から「できる」へ つながる 日本語コミュニケーション 迫田 久美子	日本語音声学 ・音韻論 日本の交通文化 宮島の歴史と文化		
7月31日	月	現代日本における 少子化問題 今川 真治	広島市内見学の発表 をしよう - パンフレ ット作成 永田 良太	留学説明会・研究室訪問	
8月1日	火	世界遺産宮島歴史文化研修 もみじ饅頭手焼き体験、厳島神社、大願寺、大聖院、紅葉谷公園、弥山、豊国神社(千畳閣)、五重塔、表参道商店街見学 小宮山 道夫・交流学生			
8月2日	水	休日			
8月3日	木	七夕(を含む日本の文化)「～ますよに」という表現を学び、使う 永田 良太	自分の国のお土産を紹介する、食品表示などを読む、お土産を購入するロールプレイ(レジ) 永田 良太	古典的遊戯の原理と実践 学生交流・相互学習	日本語プレゼンテーションの理論と実践 学生交流・相互学習
8月4日	金	松江・出雲歴史文化研修(1日目) 松江城堀川遊覧、武家屋敷、小泉八雲記念館、松江城 見学 石原 淳也・小宮山 道夫			
8月5日	土	松江・出雲歴史文化研修(2日目) 八重垣神社、古代出雲歴史博物館、出雲大社、日御碕見学 石原 淳也・小宮山 道夫			
8月6日	日	入門期の指導 西口 光一	風呂敷と日本人の暮らし 小倉 亜紗美	日本人の名前と歴史 小宮山 道夫	成果発表会・修了式 送別会
8月7日	月	帰国 (広島空港等見送り) 本田 義央・小宮山 道夫・交流学生		研修生宿舎片付け (交流学生事後学習) 小宮山 道夫・交流学生	

2023年度夏期広島大学日本語・日本文化特別研修(中国) 日程表

日 時 間	曜 日	午前		午後		オンデマンド授業
		1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目	
8月16日	水	8:45-10:15	10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05	日本アニメの基礎知識 百々 隆雄
8月17日	木		風呂敷と日本人の暮らし 小倉 亜紗美	けん玉文化 小宮山 道夫	日本語学習法の創意工夫 学生交流・相互学習	
8月18日	金		日本の絵画 一絵巻物の世界 金田 晋	コロナ禍の中で読む 日本近代文学 FERREIRO POSSE DAMASO	東広島市歴史文化研修 酒蔵通り・御建神社見学 小宮山 道夫・交流学生	
8月19日	土		日本の伝統スポーツと礼 渡部 和彦	日本人の名前と歴史 小宮山 道夫	日中文化比較 学生交流・相互学習	
8月20日	日		入門期の指導 西口 光一	広島と平和 小宮山 道夫	日本語音韻と詩作技法 学生交流・相互学習	
8月21日	月		季節を通して学ぶ 日本の文化 高永 茂	日本語音声学・音韻論 石原 淳也	広島市歴史文化平和研修 原爆資料館・平和公園見学 小宮山 道夫・交流学生	
8月22日	火		折り紙文化 ハーレー 静代	大学国際化・異文化間接触とカルチャーショック 恒松 直美	留学説明会	
8月23日	水		日本語の助詞 名塩 征史	グローバルマインドセットを培うための異文化的認識 田北 冬子	日中教育比較 学生交流・相互学習	
8月24日	木		料理の日本語 本田 義央	日常の日本語 本田 義央	世界遺産宮島歴史文化研修 厳島神社・弥山見学 小宮山 道夫・交流学生	
8月25日	金		教室では習わない日本語 佐藤 暢治	俳句で考える 翻訳の世界 溝渕 園子	成果発表会・修了式	

2023 年度秋期広島大学日本語・日本文化特別研修（長春大学特別支援） 日程表

日	曜	午前		午後			
		1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目	5コマ目	夜間
時 間		8:45-10:15	10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05	16:20-17:50	
10月17日	火			来日	入居 (出迎え)	開講式・オリエンテーション	歓迎会
				崔 明福	本田 義央・小宮山 道夫		
10月18日	水	広島南特別支援学校見学		広島情報シンフォニー訪問			
		崔 明福・本田 義央・小宮山 道夫		崔 明福・本田 義央			
10月19日	木	けん玉体験	アクセシビリティ・センター見学	東広島市歴史文化研修 酒蔵通り見学			
		DAMA けん	崔 明福・小宮山 道夫	崔 明福・小宮山 道夫			
10月20日	金	広島市歴史文化平和研修 広島城・ひろしま美術館・広島平和記念資料館・原爆ドーム・平和公園・本通見学					
		崔 明福					
10月21日	土	宮島歴史文化研修					
		崔 明福					
10月22日	日	ウッドワン見学					
		崔 明福					
10月23日	月		広島大学特別支援教育 講座講義	学内見学			送別会
			特別支援教育講座	崔 明福			
10月24日	火			帰国 (広島空港見送り)			
				崔 明福・本田 義央・小宮山 道夫			

2023 年度冬期広島大学日本語・日本文化特別研修（台湾） 日程表

日	曜 日	午前		午後			
		1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目	5コマ目	夜間
時 間		8:45-10:15	10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05	16:20-17:50	
1月13日	土	研修生受け入れ準備 (交流学生事前学習)			来日 (広島空港出迎え)	学生街案内	
					本田 義央・小宮山 道夫・交流学生		学生交流・相互学習
1月14日	日	開講式・オリエンテーシ ョン	入門期の指導	東広島市の歴史と文化	東広島市歴史文化研修 三ツ城古墳、酒蔵通り散策、御建神社・安芸国分寺見学		
			西口 光一	学生交流・相互学習	小宮山 道夫・交流学生		
1月15日	月	日本の絵画 — 絵巻物の世界 — 金田 晋	日本の伝統スポーツと 礼 渡部 和彦	日中交流史考	広島市の歴史と文化		
				学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
1月16日	火	広島市歴史文化平和研修 広島城、OKOSTA(お好み焼き体験)、旧陸軍被服支廠跡、マツダミュージアム、平和記念資料館(原爆資料館)、原爆ドーム見学					
		小宮山 道夫・交流学生					
1月17日	水	東広島市の動植物	けん玉文化	日本語学習法の 創意工夫	京都の歴史と文化		
		清水 則雄	DAMA けん	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
1月18日	木	京都歴史文化研修 (1日目) 移動	伏見稲荷大社、清水寺・清水坂見学		和菓子文化演習	豊国神社・方広寺、平 安神宮見学	京都が「つむぐ」物語 映画・小説・漫画・アニメまで
		小宮山 道夫・交流学生			甘春堂東店	小宮山 道夫・交流学 生	西岡 亜紀(立命館大 学)
1月19日	金	京都歴史文化研修(2日目) 龍安寺、鹿苑寺(金閣寺)、嵐山、北野天満宮見学			京友禅染め演習	移動	
		小宮山 道夫・交流学生			丸益西村屋	小宮山 道夫・交流学生	
1月20日	土	休日					
1月21日	日	日本アニメの基礎知識		成句の起源と文化	日本語音韻と 詩作技法		
		百々 隆雄		学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
1月22日	月	日本の建築	武道を通じて学ぶ 日本の文化	日台文化比較	宮島・錦帯橋の 歴史と文化		
		高原 良彦	出口 達也	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
1月23日	火	宮島・錦帯橋歴史文化研修 錦帯橋、厳島神社、大願寺、大聖院、紅葉谷公園、弥山、豊国神社(千畳閣)、五重塔、表参道商店街見学					
		小宮山 道夫・交流学生					
1月24日	水	風呂敷と 日本人の暮らし 小倉 亜紗美	けん玉文化 DAMA けん	留学説明会・研究室訪問			
1月25日	木	日本の 非核政策の展開	「わかる」から「できる」へ つなぐ 日本語コミュニケーション	日本語読解力 鍛錬講座	成果発表会・修了式	送別会	
		友次 晋介	迫田 久美子	陳 斐寧			
1月26日	金	帰国 (広島空港見送り)		研修生宿舎片付け (交流学生事後学習)			
		本田 義央・小宮山 道夫・交流学生					

2023 年度冬期広島大学日本語・日本文化特別研修（非漢字圏） 日程表

日	曜 日	午前		午後			夜間
		1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目	5コマ目	
時 間		8:45-10:15	10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05	16:20-17:50	
1月27日	土	研修生受け入れ準備 (交流学生事前学習) 本田 義央・小宮山 道夫・交流学生			来日 (広島空港出迎え)	学生街案内	
					学生交流・相互学習		
1月28日	日	開講式・オリエンテーション	日本人の名前と歴史	各国交流史考	学内見学		
			小宮山 道夫	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
1月29日	月	風呂敷と日本人の暮らし	教室では習わない日本語	日本語学習法の創意工夫	各国文化比較		
		小倉 亜紗美	佐藤 暢治	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
1月30日	火	日本の伝統スポーツと礼	日本の絵画 一絵巻物の世界一	東広島の歴史と文化	東広島市歴史文化研修 三ツ城古墳、酒蔵通り散策、御建神社・安芸国分寺見学		
		渡部 和彦	金田 晋	学生交流・相互学習	小宮山 道夫・交流学生		
1月31日	水	日本語の助詞	けん玉文化	広島市の歴史と文化	日本の交通文化		
		名塩 征史	DAMA けん	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
2月1日	木	広島市歴史文化平和研修 広島城、OKOSTA(お好み焼き体験)、広島市環境局中工場、平和記念資料館(原爆資料館)、原爆ドーム見学 小宮山 道夫・交流学生					
2月2日	金	休日					
2月3日	土	日本アニメの基礎知識		日本語音韻と詩作技法	広島市の歴史と文化		
		百々 隆雄		学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
2月4日	日	世界遺産宮島歴史文化研修 宮島伝統産業杓子づくり体験、厳島神社、大願寺、大聖院、紅葉谷公園、弥山、豊国神社(千畳閣)、五重塔、表参道商店街見学 小宮山 道夫・交流学生					
2月5日	月	入門期の指導	柔道を通して 日本文化を学ぶ	留学説明会・研究室訪問			
		西口 光一	出口 達也				
2月6日	火	日本の建築	折り紙文化	成句の起源と文化	瀬戸内海の歴史と文化		
		高原 良彦	ハーレー静代	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
2月7日	水	瀬戸内海国立公園歴史文化研修 対潮楼見学、鞆の浦・仙酔島散策 本田 義央・小宮山 道夫・交流学生					
2月8日	木	「わかる」から「できる」へ つながる 日本語コミュニケーション	東広島市の動植物	各国教育比較	成果発表会・修了式	送別会	
		迫田 久美子	清水 則雄	学生交流・相互学習			
2月9日	金	帰国 (広島空港等見送り)		研修生宿舎片付け (交流学生事後学習)			
		本田 義央・小宮山 道夫・交流学生					

2023 年度冬期広島大学日本語・日本文化特別研修（中国） 日程表

日	曜 日	午前		午後			夜間
		1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目	5コマ目	
時 間		8:45-10:15	10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05	16:20-17:50	
2月13日	月	研修生受け入れ準備 (交流学生事前学習)		来日 (広島空港出迎え)	寮生活説明会	キャンパス案内	学生街案内
		本田 義央・小宮山 道夫・交流学生				学生交流・相互学習	
2月14日	水	開講式・オリエンテーシ ョン	東広島市の動植物	東広島の歴史と文化	東広島市歴史文化研修 三ツ城古墳、酒蔵通り散策、御建神社・安芸国分寺見学		
			清水 則雄	学生交流・相互学習	小宮山 道夫・崔 明福・交流学生		
2月15日	木	日本の絵画 ―絵巻物の世界―	けん玉文化	日中交流史考	日本語学習法の 創意工夫		
		金田 晋	DAMA けん	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
2月16日	金	広島市歴史文化平和研修 広島城、広島市環境局中工場、お好み村(お好み焼き体験)、広島県立美術館・縮景園、平和記念資料館(原爆資料館)、原爆ドーム見学					
		小宮山 道夫・崔 明福・交流学生					
2月17日	土	日本アニメの基礎知識		日本語学習法の 創意工夫	日中文化比較		
		百々 隆雄		学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
2月18日	日	日常の日本語	日本語音声学・音韻論	日中食文化比較	古典的遊戯の 原理と実践		
		本田 義央	石原 淳也	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
2月19日	月	日本の建築	風呂敷と 日本人の暮らし	日中教育比較	日本語音韻と 詩作技法	留学説明会	
		高原 良彦	小倉 亜紗美	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
2月20日	火	季節を通して学ぶ 日本の文化	折り紙文化	宮島・錦帯橋の 歴史と文化	成句の起源と文化		
		高永 茂	ハーレー静代	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習		
2月21日	水	宮島・錦帯橋歴史文化研修 錦帯橋、厳島神社、大願寺、大聖院、紅葉谷公園、弥山、豊国神社(千畳閣)、五重塔、表参道商店街見学					
		小宮山 道夫・崔 明福・交流学生					

2月22日	木	日本語の助詞	日本の伝統スポーツと礼	日本語プレゼンテーションの理論と実践	
		名塩 征史	渡部 和彦	学生交流・相互学習	
2月23日	金	入門期の指導	「わかる」から「できる」へ つなぐ 日本語コミュニケーション	成果発表会・修了式	送別会
		西口 光一	迫田 久美子		
2月24日	土		帰国 (広島空港見送り)	研修生宿舎片付け (交流学生事後学習)	
			本田 義央・小宮山 道夫・交流学生		

2023 年度冬期広島大学日本語・日本文化特別研修（中国・オンライン） 日程表

日	曜日	午前		午後	
時 間		1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目
		8:45-10:15	10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05
2月14日	水	開講式・オリエンテーション	東広島市の動植物	東広島市の歴史と文化	東広島市歴史文化研修 酒蔵通り・御建神社中継
			清水 則雄	学生交流・相互学習	小宮山 道夫・交流学生
2月15日	木	日本の絵画 — 絵巻物の世界 — 金田 晋	けん玉文化	日中交流史考	日本語学習法の 創意工夫
			DAMA けん	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習
2月16日	金	広島市歴史文化平和研修 広島城、縮景園、平和公園・原爆ドームを部分中継（3時間相当） 小宮山 道夫・交流学生			
2月17日	土	日本アニメの基礎知識		日本語学習法の 創意工夫	日中文化比較
		百々 隆雄		学生交流・相互学習	学生交流・相互学習
2月18日	日	日常の日本語	日本語音声学 ・音韻論	日中食文化比較	古典的遊戯の 原理と実践
		本田 義央	石原 淳也	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習
2月19日	月	日本の建築	風呂敷と 日本人の暮らし	日中教育比較	日本語音韻と 詩作技法
		高原 良彦	小倉 亜紗美	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習
2月20日	火	季節を通して学ぶ 日本の文化	折り紙文化	宮島・錦帯橋の 歴史と文化	成句の起源と文化
		高永 茂	ハーレー 静代	学生交流・相互学習	学生交流・相互学習
2月21日	水	宮島・錦帯橋歴史文化研修 錦帯橋、厳島神社、宮島を部分中継（3時間相当） 小宮山 道夫・交流学生			
2月22日	木	日本語の助詞	日本の伝統スポーツと礼	日本語プレゼンテーションの理論と実践	
		名塩 征史	渡部 和彦	学生交流・相互学習	
2月23日	金	入門期の指導	「わかる」から「できる」へ つなぐ 日本語コミュニケーション	成果発表会・修了式	
		西口 光一	迫田 久美子		

以下では、今年度特有の事情と新たな取り組みを中心に述べることにする。

(1)実施時期

夏期の実施時期については、お盆までに対面の2コースを組み、オンラインの中国コースはお盆明けに行うこととした。冬期については春節（旧正月）が2月1日（火）で春節休暇は1月31日から2月6日までとなったため、春節前に台湾コースを、春節後に中国コースを実施することとした。非漢字圏コースは例年比較的少人数でもあることから広島大学の試験期間と重なり交流学生の人数確保が難しくとも対応が可能な旧正月の時期に重ねることとした。

北京便の運行が再開していたため冬期の中国コースの対面実施が可能となったことから、オンラインを実施するかどうか判断の分かれ目であった。久々の対面実施であり、日程の後半に授業期間が始まっている大学があるといった不安材料があったため、参加者がどの程度集まるか読むことができなかった。このため好評を博していたオンラインの良さも生かすこととし、対面をハイブリッド形式で実施してオンライン参加者に配信するかたち

で実施することとした。

そのほか、夏期の台湾コースは西条祇園祭の時期に重なり、開講当日が宵宮にあたるため変則的に学外研修の東広島市歴史文化研修を初日に組み込むこととし、翌日も本祭の神輿渡御を見学させる日程を組んだ。非漢字圏コースにおいては通例であれば日程後半に学外研修の瀬戸内海国立公園歴史文化研修（鞆の浦）を組むところであるが、本研修に授業提供もしてくださっている石原淳也准教授が担当する日本語・日本文化研修プログラムで松江・出雲歴史文化研修を実施するにあたりお誘い頂いたことから、合同させてもらうこととなった。非漢字圏コースで外泊を伴う学外研修を実施したのは恐らく初めてのことと思われる。貴重な体験をすることができた。冬期については、台湾コースの来日日および初日のプログラムが大学入学共通テストの日程と重なっていることから不用意にキャンパス内を歩き回ることが無いように必要最小限の授業と学外研修の東広島市歴史文化研修を組むようにした。同様に中国コースの最終日も2次試験以前に終わるように組んだ。また、働き方改革の一環で、できる限り土日に開講式や修了式を入れないようにとの要望が事務方からあったため、通常よりもわずかに短縮した日程で組むこととなった。

(2)実施環境

使用する教室は夏期については森戸国際高等教育学院内の教室でほぼまかなうことができたが、冬期は授業期間との兼ね合いで教室の確保が課題であった。昨年度貸与をうけることのできた全学の弾力的運用スペース1室(K313)は利用することができなくなったため、新たな教室を見つけなければならなかった。幸いに大学会館内に設けられているアリゾナ州立大学サンダーバードグローバル経営学部広島大学グローバル校の講義室(ASU 講義室)がこの時期に空いているという情報が事務からもたらされたため、台湾コースをこのASU 講義室で行うことができた。非漢字圏コースについては学士会館2階の会議室を期間中通して使用することができた。中国コースについては教育学部の教室を主としつつ、部分的に総合科学部の教室と中央図書館ライブラリーホールを転々としながら実施することとなった。台湾コースと非漢字圏コースのように期間を通じて同じ教室を利用できることは非常に有益ではあるものの、森戸国際高等教育学院から離れているため、機材の設置や授業準備に支障がある。中国コースのように教室変更のため授業の都度準備が必要となるよりはましであるが、今後も教室の確保は課題となり続ける。

(3)管理運営体制

今年度より人員が一新した。基本的には事務の責任者にあたる常勤職員1名、契約職員1名の体制で、随時もう1名の契約職員が支援する形態となった。それぞれ最大限の働きを見せてくれていたが勤務時間上の制約などもあるため、プログラムの実施上あまり余力

の無い状態であった。連携不足によって研修生や講義を提供して下さった講師、学内外の関係者の皆さんにご迷惑をおかけしたことを推察する。この場を借りてお詫び申し上げる。さらに今期は中国コースの対面を復活させるため懸念も大きかったが、幸いにも 2019 年度まで本研修を専任事務として担当していた中国・長春大学特殊教育学院特殊教育学科の崔明福准教授が森戸国際高等教育学院主幹特任学術研究員を兼任しており、来日する予定となっていたため、冬期の中国コースに全面的に協力いただくことができた。

(4)社会連携科目「国際交流スキルアップ演習」

2021 年度に創設した教養教育社会連携科目「国際交流スキルアップ演習」（主担当教員 荒見泰史、副担当教員小宮山道夫）は、参加対象となる国際ボランティア活動ごとに区別することとなり、今年度より A B C の 3 種に切り分けることとなった。これにより日本語・日本文化特別研修を対象とする演習は 2023 年度より「国際交流スキルアップ演習 B」（主担当教員小宮山道夫）として、実施した。前期は受講者 3 名、後期は 6 名が単位を修得した。

(5) 立命館大学連携広島特別研修

本プログラムは日本語・日本文化特別研修における学外研修の京都歴史文化研修の双方向性をもつ受け入れ研修として 2016 年度より実施してきたもので、立命館大学にて研修中の留学生に対して教育プログラムを提供するものである。2019 年に留学生の派遣校である米国ラトガーズ大学の事情で不催行となり、その翌年からのコロナ禍でしばらく中断していたが、今年度ようやく復活することとなった。今年度は 7 月 3 日に日帰り日程で来広したラトガーズ大学の学生 16 名に対し、広島市内での平和学習を提供した。研修には交流学生として広島大学の学生 7 名が同行した。原爆ドーム・広島平和記念公園を小宮山が案内・解説し、広島平和記念資料館においては小倉桂子氏による被爆者講話を実施、展示を見学の後、昼食にお好み焼きを食べ、午後は宮島を散策した。以前と異なり日程指定での依頼であったため小宮山は授業日程と重なってしまい、午前中の被爆者講話までで離脱し、午後の授業のために東広島キャンパスに戻った。また、小宮山が当日午前中に開講する教養教育平和科目の受講生 12 名が平和公園での平和学習に同行した。

広島特別研修	7 月 3 日(月)	ラトガーズ大学	16 名＋引率教職員 2 名
		広島大学	交流学生 7 名＋平和科目受講生 12 名
			事務職員 1 名、平和科目 TA1 名同行

研究・その他の活動（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

1. 研究論文・著書・研究ノート

小宮山道夫「Book Review 湯川次義著『戦後教育改革と女性の大学教育の成立—共学・別学の並立と特性教育の行方—』」（『IDE 現代の高等教育』No.652, 2023 年 7 月号, IDE 大学協会, 2023 年 7 月 1 日, pp. 66-67.

西條結人「日本語教員養成課程入門科目における ICT を活用した授業実践の試み—海外日本語教育事情に関する学習を事例として—」『語文と教育』, 第 37 号, 2023, pp. 70-84.

西條結人「海外日本語教育における授業文化に関する研究の動向と展望—学習観, 教師観, 授業観の観点から—」『広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究』, 第 4 号, 2023, pp. 306-315.

西條結人「(特別寄稿論文)『説得の戦略』に着目した日本語スピーチの作成と指導」『キルギス日本語教育研究』, 第 7 号, 2024, pp. 6-15.

Sakoda, Kumiko. “Second Language Acquisition Studies Observed in “The International Corpus of Japanese as a Second Language” (I-JAS) by Chinese Speakers: From the Perspectives of Pragmatic Transfer” In Howard Hao-Jan Chen et al. (Eds.) *Learner Corpora: Construction and Explorations in Chinese and Related Languages*. pp.305-317, Springer, April 4, 2023, ISBN: 9789811957307

迫田久美子（監修）古本裕美（編著）近藤玲子・近藤妙子・リード真澄（著）『Shadowing もっと話せる日本語 初～中級編』くろしお出版, 2023 年, 7 月 25 日, Pp. 159, ISBN: 9784874249529

Takita, Fuyuko, Sondergaard, Mikael and Van-Rompay, Ingrid.: International Students' Perceptions and Their Learning Experience in an International Network Seminar in Japan: During and Post the COVID-19 Pandemic, MDPI Sustainability: Impact of COVID-19 Pandemic on Education: Lesson Learned, *Future Development and Change*, 15 卷, 11 号, May, 2023.

陳斐寧 『日本學指南:100 本研究日本人文科學領域主題的經典專書』「82.渡邊秀夫（和歌的詩學：平安朝文學與漢文世界）」五南出版, 2023 年 8 月 25 日, 分担執筆、

中国語, pp.326-329.

恒松直美 「国際教育交流における高校生と留学生のアカルチュレーションー 地域社会と異文化の『関り』の構築 ー」, 『広島県立日彰館高等学校研究紀要』, 21号, 2024, pp. 46-53.

西口光一監修 (2024) 『一步進んだ日本語教育概論 ー 実践と研究のダイアログ』大阪大学出版会

西口光一 (2024) 「日本語教育者の責任としての実践と研究のダイアログ ー 教育実践と研究実践のポリフォニー」, 西口光一監修 (2024) 所収

2. 学会発表

小宮山道夫 「教育史資料の生成と継承に関する現代的課題ー小学校における文書管理の実態からー」, 全国地方教育史学会第 46 回大会シンポジウム「地域の教育史資料の収集・保存・活用」, パネリスト, 甲南女子大学, 2023 年 5 月 28 日

小宮山道夫 「明治の学校衛生と学校医」, 広島医史学研究会, 広島大学, 2024 年 1 月 27 日

西條結人 「日本語教員養成課程入門科目におけるオンラインツールを活用した授業実践の試みー海外日本語教育事情に関する学習を事例としてー」第 70 回中国・四国地区大学教育研究会, 広島大学, 2023 年 6 月 17 日

西條結人 「非母語話者教師による日本語授業における『笑い』の機能」西日本言語学会第 53 回研究発表会, 広島大学, 2023 年 9 月 9 日

西條結人 「初級日本語クラスの教室談話におけるキルギス人教師の『笑い』」韓国日本語教育学会第 66 回定期国際学術発表大会, 慶尚国立大学校師範大学 (オンラインとのハイブリッド開催), 2023 年 9 月 23 日

西條結人 「同一社会文化を背景とするモノリンガルとバイリンガルの説得の戦略ーエートスと議論の型の観点からー」社会言語科学会第 48 回研究大会, 福岡女子大学, 2024 年 3 月 10 日

田北冬子 “Cultivating Global Mindset and Global Citizenship-Global Issues towards Peaceful and Sustainable World” 異文化平和促進協会, 英国グリニッジ大学, 2023 年 9 月 21 日

田北冬子 “グローバル市民としての普遍的責任” Universal Responsibility as a Global Citizen まちづくり市民交流プラザ 5F 平和促進学会, 2023 年 5 月 19 日

Tsunematsu, Naomi, “Intercultural Challenges of Western Exchange Students in Study Abroad in Japan: Voices of Western ‘Other’ and Identity Constructions,” The 15th Asian Conference on Education (ACE 2023), The International Academic Forum (IAFOR), Online, November 23, 2025. Online.

名塩征史 「主体的な学びに応える LMS ―日本語学習を支援するシステムの開発―」, 中国・四国地区大学教育研究会 日本語・日本事情分科会, 広島大学, 2023 年 6 月 17 日

NASHIO, Seiji, “Multimodal Analysis of Kata-based Training in a Child-oriented Karate Lesson: How to Achieve an Adequate Imitation of an Expert's Practice”, The 18th International Pragmatics Conference, Belgium, July 9th, 2023

名塩征史 「「教える」話しぶり／「学ぶ」話しぶり□自他の認識を反映した話し方によって演出される稽古もしくは師弟」, 日本認知言語学会第 24 回大会, 創価大学, 2023 年 9 月 2 日

名塩征史 「マルチアクティビティ環境における 「いま期待されている振る舞い」をめぐる理解 ―理容室でのコミュニケーションを例に―」, 日本認知科学会第 40 回大会, 公立はこだて未来大学, 2023 年 9 月 8 日

名塩征史 「身体的な学びを支える分析的指導: 空手の指導におけるマルチモーダルな「わざ」の記述」, シンポジウム: 「わざ」を伝えるマルチモダリティ: 武道・芸道における指導―学習インタラクション, 国立国語研究所, 2024 年 2 月 27 日

3. 学術研究補助金

小宮山道夫 科学研究費補助金 (C) 「近代教育政策における制度構想と地域での受容―広域文教行政と地域実態の相克―」 (2019-2023)

小宮山道夫 科学研究費補助金 (B) (研究分担者) 「1960-70 年代の大学改革―大学紛争と大学改革の国際比較研究 (代表: 羽田貴史)」 (2021-2023)

西條結人 「開発途上国における日本語教師の授業文化に関する研究―授業の『型』に着目して―」 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2021-2023)

迫田久美子 (2019 年～2023 年) 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「日本語学習者コーパスによる教育と研究のグローバルネットワークの構築」(研究代表者 科研番号 19KK0055)

田北冬子 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C))、Promoting Effective Intercultural Communicative Competence for Japanese University Students in Cross-Cultural Negotiating Settings. (2022-2024)

名塩征史 科学研究費補助金 基盤研究 (C)「武道における指導-学習過程の相互行為分析：実践的技能を伝え合う言語と身体の解明」(2021-2023)

4. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

小宮山道夫 放送大学客員准教授

小宮山道夫 放送大学非常勤講師

小宮山道夫 福山市医師会看護専門学校非常勤講師

小宮山道夫 東広島市史編さん専門部会員

小宮山道夫 広島大学文書館研究員

小宮山道夫 広島大学スポーツセンター協力研究員

小宮山道夫 広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構研究員

西條結人 文化庁 令和5年度日本語教師養成・研修推進拠点整備事業
(中国・四国ブロック) 留学生教育部会 委員

田北冬子 広島県平和推進プロジェクト・グローバル未来塾 in ひろしま (代表：広島県知事 湯崎英彦) 未来塾 in 2022 and 2023 プロジェクト研修講師

田北冬子 広島大学 国際交流室 国際大学ネットワーク (INU) 運営委員

田北冬子 シリア平和への架け橋・人材育成プログラム (Japanese Initiative for the Future of Syrian Refugees, JISR) 広島大学統括責任者(プログラムコーディネーター)

陳斐寧 「日本語読解力鍛練講座」講義、2024 年度夏季広島大学日本語・日本文化特別研修、2023 年 7 月 20 日

陳斐寧 「2023 年度 ICT 利用による日本語教育を考える研究会」協力教員、2023 年 7 月 23 日

恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール研究協力委員

恒松直美 広島大学ダイバーシティ研究センター協力教員

恒松直美 広島大学大学院人間社会科学研究科 教育科学専攻 教育学プログラム
協力教員

恒松直美 多文化共生研究会メンバー

恒松直美 広島県立日彰館高等学校 異文化理解教育推進委員

恒松直美 シリア平和への架け橋・人材育成プログラム (Japanese Initiative for the Future
of Syrian Refugees, JISR) 日本語予備教育

B. 学会活動

小宮山道夫 全国地方教育史学会 全国幹事

小宮山道夫 広島医史学研究会 理事

西條結人 日本語教育学会国際連携委員会 委員

西條結人 第二言語習得研究会 (JASLA) 広報委員会 委員

田北冬子 日本 CLIL (Content and Language Integrated Learning) 学会 会員

田北冬子 グローバル人材育成教育学会 JAGCE (The Japan Association for Global
Competency for Education) 会員

恒松直美 日本総合学会 監事

Tsunematsu, Naomi, The 15th Asian Conference on Education (ACE 2023), The International
Academic Forum (IAFOR), Chair for Live-Stream Session 2: Education and
Contemporary Development Issue, Tokyo, November 25, 2023. Online.

名塩征史 社会言語科学会 事業委員

名塩征史 日本語用論学会 広報委員

名塩征史 対照言語行動学研究会 世話役／事務局

C. 講演・ワークショップ等

小宮山道夫 放送大学広島学習センター公開特別講座「青年と近代①青年の誕生」2023年5月14日

小宮山道夫 放送大学広島学習センター公開特別講座「青年と近代②明治の青年」2022年7月1日

小宮山道夫 放送大学広島学習センター公開特別講座「青年と近代③青年とは何か」2023年9月17日

小宮山道夫 放送大学広島学習センター公開特別講座「広島の教育の歴史①明治期の教育」2023年11月18日

小宮山道夫 放送大学広島学習センター公開特別講座「広島の教育の歴史②大正・昭和戦前期の教育」2024年1月13日

小宮山道夫 放送大学広島学習センター公開特別講座「広島の教育の歴史③戦後の教育」2024年3月30日

西條結人「『説得の戦略』に着目した日本語スピーチの作成と指導」第7回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会基調講演、カラサエフ記念ビンケク国立大学、2023年8月19日。

西條結人「ことばと文化の教育を通じたキルギスでの国際協力」JICA 中国センター国際協力出前講座、比治山女子高等学校、2023年9月7日。

西條結人「日本からやって来た外国人としてキルギスで学んだことー『世界』のために何ができるかー」JICA 中国センター国際協力出前講座、広島市立仁保中学校、2024年3月15日。

迫田久美子 「ICT 利用によるカスタマイズの日本語教育」中国日本語教育研究会年次大会、湖南大学主催（オンライン・中国 湖南大学）、2023年5月13日

迫田久美子 「学習者コーパスが語る誤用の原因ー教師と学習者の文法の違いー」日語教育与日本学研究会（ハイブリッド・中国 同済大学）、2023年6月3日

迫田久美子 「中等から高等教育へ繋ぐ日本語教育ー運用能力を築くにはー」韓国日語教育学会主催（ハイブリッド・韓国 慶尚大学校）、2023年9月23日

迫田久美子「日本語教師の使命と役割を考えるーコーパスが語る学習者の文法ー」秋田国際教養大学（対面・秋田国際教養大学）2023 年 10 月 28 日

迫田久美子「学習者コーパスに見る言語使用のバリエーションー考える時間は正確さを高めるかー」上海大学外国語学院主催（オンライン・上海大学外国語学院），2023 年 11 月 4 日

迫田久美子「日本語教師の使命と役割を考えるーコーパスに見つける学習者の文法ー」慶尚大学校主催（オンライン・韓国 慶尚大学校）2023 年 11 月 10 日

迫田久美子「日本語教師の使命と役割ー「学習者はなぜ間違えるのか」を理解するー」中国全土教員研修（オンライン・北京日本学研究中心）2023 年 12 月 4 日

迫田久美子 第 8 回学習者コーパスワークショップ（LCW8）主催「学習者の日本語習得における複雑さの捉え方」（オンライン・国立国語研究所）2024 年 2 月 3 日

迫田久美子「学習者コーパスに観る習得研究の面白さー誤用の原因から母語や環境の影響までー」上海外国語大学日本文化経済学院主催（ハイブリッド）2024 年 2 月 6 日

迫田久美子他「Shadowing もっと話せる日本語ーワンランク上の日本語を身につけようー」くろしお出版主催（オンライン・くろしお出版）2024 年 2 月 17 日

Takita, Fuyuko. “Workshop: Living Value Identifying Workshop~Beyond Culture, Language and Nation” Lecture, Greenwich University (the U.K.) Intercultural Peace Society, Dreadnaught Bldg. September 21st, 2023

田北冬子 “Gender Equality and Quality Education towards SDGs (Sustainable Development Goals)” 講義 広島平和推進プロジェクト・グローバル未来塾 in ひろしま, 広島国際プラザ・まちづくり市民交流プラザ, 2023 年 8 月 13 日

田北冬子 “Poverty and Hunger- SDGs (Sustainable Development Goals)” 講義 広島平和推進プロジェクト・グローバル未来塾 in ひろしま, 広島国際プラザ・まちづくり市民交流プラザ, 2023 年 8 月 13 日

田北冬子 “Cultivating Global Mindset and Global Citizenship in the VUCA Era” 特別講義 国際大学ネットワーク（INU2023）Global Citizenship and Peace 広島大学, 2023 年 8 月 3 日

- 田北冬子 “Cross-Cultural Communication and Negotiation” 特別講義 国際大学ネットワーク (INU2022) Global Citizenship and Peace, 広島大学, 2023 年 8 月 10 日
- 田北冬子 “Negotiating Politely and Effectively Across Cultures” 講義 国際大学ネットワーク (INU2023), 広島大学国際室グローバル推進グループ主催, 広島大学 2023 年 7 月 19 日
- 田北冬子 BEVI 分析を用いた国際共著論文掲載まで (海外大学との国際共同研究) 講義 (オンライン) SIEJ 国際教育研究コンソーシアム (2023 講義 (オンライン) SIEJ 研究コンソーシアム (2023) 東北大学), 2023 年 7 月 20 日
- 恒松直美 広島県警察呉警察署「社会体験者講話」, 地域公開国際セミナー開催, 「グローバルインターンシップ」, 2023 年 7 月 7 日
- 恒松直美 「異文化間能力育成研修」, 広島県立広高等学校, 2023 年 7 月 21 日
- 恒松直美 広島大学模擬授業 (出張講義) 広島県立呉三津田高等学校, 「グローバル社会と異文化理解」, 2023 年 6 月 21 日
- 恒松直美 「大学国際化・異文化間接触とカルチャーショック」講義 (オンライン), 2023 年度夏季広島大学日本語日本文化特別研修 (中国), 2023 年 8 月 22 日
- 恒松直美 「グローバル・インターンシップ」秋の大祭オリエンテーション (オンライン), 2023 年 9 月 12 日・22 日
- 恒松直美 「グローバル・インターンシップ」秋の大祭フィールドワーク引率, 2023 年 10 月 1 日
- 恒松直美 「グローバル・インターンシップ」広島銀行におけるインターン実習, 2023 年 11 月 10 日
- 恒松直美 「日彰館高等学校と広島大学学生との国際教育交流」 (オンライン), 広島県立日彰館高等学校「グローバル人材育成プログラム 120 ― 吉舎おもてなしプラン」, 2023 年 11 月 11 日
- 恒松直美 広島大学大学院人間社会科学研究科教育科学専攻教育学プログラム教育学コース研究室紹介
- 恒松直美 広島大学公開講座「グローバル社会・大学・地域を結ぶ～異文化との接触に備えて～」 (英語・日本語, オンライン), 2023 年 12 月 8 日

- 恒松直美 「地域と大学が協働で創る多文化共生社会」地域公開国際セミナー開催, 「グローバルインターンシップ」, 2023 年 12 月 22 日
- 恒松直美 書道講座 「シリア平和への架け橋・人材育成プログラム (JISR) 」, 2024 年 2 月 26 日
- 名塩征史 「コミュニケーション活動のタイプ」, 社会言語科学会講習会 2023 秋: 社会言語科学の方法としての「比較」, 慶應義塾大学, 2023 年 9 月 17 日
- NASHIO, Seiji, MORIMOTO, Ikuyo, and DEN, Yasuharu, “Imitation and simulation for instructing and learning Kata: A multimodal analysis of Japan-style transmission of practical skills”, The 18th International Pragmatics Conference, Panel Session, Belgium, July 9th, 2023
- 西口光一 ダルマプルサダ大学日本語日本文化学科教員研修会 (国際交流基金サクラネットワーク助成) , 2023 年 9 月 13 日~15 日, ダルマプルサダ大学
- 西口光一 「基礎日本語教育を改善するために何が必要か — 人を中心に据えた日本語教育について」, 国際交流基金サクラネットワーク助成公開日本語教育セミナー, 2023 年 9 月 16 日 (土) , ダルマプルサダ大学
- 西口光一 「日本語教育をめぐる政策・施策と『わたしたち』として大切なこと」, 2023 年 9 月 24 日 (日) , (公社) 日本語教育学会 中国支部活動, 香川大学
- 西口光一 「ナラティブ (マスターテキスト) を活用した基礎日本語の習得と習得支援」 2024 年 3 月 16 日 (土) , ベトナム国家大学人文社会科学大学ホーチミン校